

# 岡山藩と寺社

平成  
三  
十  
年  
度  
企  
画  
展

池田家文庫絵図展

*Okayama Han, Temples and Shrines*

- 会 期 平成 30 年 11 月 3 日(土・祝)～11 月 18 日(日)
- 会 場 岡山シティミュージアム 4 階 企画展示室
- 主 催 岡山大学附属図書館・岡山シティミュージアム
- 後 援 岡山県教育委員会・岡山市教育委員会

岡山大学と岡山市の文化事業協力協定に基づく事業である、この池田家文庫絵図展も本年度で14回目の開催となりました。今回も岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムの主催で、岡山藩と寺社との関係についての展覧会を行います。

本展覧会は、岡山大学附属図書館で保存管理している、池田家文庫（江戸時代岡山藩の藩政資料等のコレクション）を広く地域社会の皆様に公開し、親しんでいただくことを目的に企画しています。展覧会の主な展示資料は「絵図」類で、この地図資料群は池田家文庫の特徴的な資料でもあります。

毎回、様々なテーマで実施している当展覧会ですが、本年のタイトルは「岡山藩と寺社」です。江戸時代の人々にとって、寺院や神社は日々の生活に欠くことのできない施設でした。それは藩主の池田氏も例外ではありません。今回の展示では、池田家と縁の深い寺院や岡山藩内の寺社を豊富な絵図・文書によって紹介しています。寺社はまとめて取り上げるのは今回が初めてで、従来一度も館外へ出たことがない資料が多く出展されています。この機会に池田家文庫に残る寺社の絵図を楽しんでいただければ幸いです。

この池田家文庫絵図展が、皆様の岡山や日本の歴史理解に役立ち郷土愛を高める助けとなると共に、池田家文庫という地域の共有財産を今後も継承していく契機となることを願ってやみません。

2018年11月3日

岡山大学附属図書館  
館長 今津勝紀  
岡山シティミュージアム  
館長 大野明幸

## 関連行事

### Event

#### オープニングトーク

日 時 平成30年11月3日(土・祝) 午前10時～午前10時30分  
場 所 岡山シティミュージアム 4階企画展示室  
講 師 岡山大学 特命教授 倉地克直氏

#### 講演会「池田家と国清寺」

日 時 平成30年11月10日(土) 午後2時～午後4時  
場 所 岡山シティミュージアム 4階講義室  
講 師 元岡山県立記録資料館館長 在間宣久氏

## 凡例

### Introductory

- 1 本図録は、岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムが平成30年11月3日(土・祝)～11月18日(日)まで開催する「企画展 池田家文庫絵図展『岡山藩と寺社』」の図録である。
- 2 展示番号と本書の図版番号、展示資料目録に記した番号は一致する。また表記は図版番号、資料名、池田家文庫整理番号、員数、年代、法量(タテ×ヨコ、cm)の順に記した。
- 3 本書に掲載した展示資料の写真は、岡山大学附属図書館が所蔵する絵図デジタル画像及び岡山シティミュージアムが撮影した画像である。
- 4 本書の総説・展示資料解説は、岡山大学特命教授 倉地克直が執筆した。編集は岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムで行った。

# 目次

---

## Contents

「岡山藩と寺社」解説	1
出展資料解説	4
池田家文庫絵図展・記念講演会開催記録	24
出展資料目録	25

## 寺社の絵図

江戸時代の人びとにとって寺院や神社は日々の生活に欠くことのできない宗教施設であった。この寺社が絵図に描かれるのは、次のような場合が考えられる。

一つは、寺社の敷地や建物の配置を描いた境内図。こうした図は、寺社が創建されたときにその全体を記録するために作られたり、寺領宛行や境目紛争などで境内の敷地を確認するためなどに作られる。彩色豊かに描かれた大幅のものも少なくない。

二つは、寺社での儀式や藩主の参詣などのために作られる参詣図。藩主などが参詣する際に、その道筋や警固・案内役などの配置を示す場合が多い。この場合は、堂舎を中心に境内の一部が描かれることになる。徒頭などが現地で使用するのは、袖に入れられるように折り畳んだ小振りなものである。

三つは、寺社の堂舎を建築するために描かれる指図。こうした図では、建物の規模・構造や用途などについて知ることができる。藩が造営する場合は、色紙を貼り付けた丁寧な作りの指図もあり、修繕の様子を朱書きや懸紙で示すこともある。立面図として描かれる場合もある。

四つは、有名寺社に一般の人が参詣する便宜のために作られる案内図。こうした図は絵画的で大量生産されるので、木版などで作られることが多い。一般に「寺社参詣図」と言えば、こうした案内図を指す場合が多い。

池田家文庫絵図類のうち、寺社を描いた絵図は主に T11 にまとめられている。それらに描かれた寺社は、二種類に分かれる。

一つは、池田家の菩提寺など池田の「家」に関わりの深いもの。それらは先祖の供養や祭祀のために建てられ、そのための儀式が定期的に行われた。

もう一つは、岡山藩内の一般の寺社で、藩の領域支配の一環として行政の対象とされたもの。そのうち領民の信仰が篤い有力な寺社に対しては、寺社領を認めたり、堂舎を建立したりして、保護を加えている。

## 池田家ゆかりの寺院

江戸時代の家は最寄りの寺院の檀家となり、その檀那寺で葬式や先祖の供養を行った。檀那寺は、檀家の人びとがキリシタンでないことを証明する宗旨請けも行った。しかし、岡山藩では光政の時代に村の神社の神職が宗旨請けを行う「吉利支丹神職請」という特異な制度が行われた。神職請のためには、村内の由緒の明らかでない小社が毀たれ、寺院の淘汰や僧侶の還俗が強制的に行われた。葬儀や先祖祭祀も儒教式で行われるようになり、光政は先祖祭祀のための墓所を和気郡の和意谷に設けている。藩士のなかには儒教式の墓を造る者も少なくなかった。しかし、光政の子の綱政の時代になると神職請は廃止され、一部の神職を除いてほとんどの家の檀那寺が復活した。

江戸時代を通じて池田家と関係の深かった寺院には、次のようなものがある。

### 龍徳寺

美濃国池田郷本郷村（現岐阜県池田町）にある。池田恒利・恒興・元助の墓があり、江戸時代の初めから池田家の「位牌所」と認められていた。江戸時代後期には岡山池田家・鳥取池田家の藩主が参勤交替で美濃路を通行する際には、参詣するようになる。長久手の戦いから200年にあたる天明3年（1783）には、恒興とともに戦死した家臣を弔う「烈忠霊同聚」の位牌が、その子孫にあたる岡山藩士・鳥取藩士によって納められた。境内には「烈忠塔」もある。

## 国清寺

国清寺のある京橋東詰の地には初め利隆によって法源寺が造営された。利隆が姫路城に移り忠継が亡くなると、跡を継いだ忠雄によって忠継を弔うために龍峯寺が置かれた。寺名は忠継の院号にちなんでいる。さらに忠雄の死後、子の光仲が鳥取に転封になると龍峯寺も鳥取に移され、跡には鳥取から国清寺が入った。国清寺は利隆が父輝政を弔うために姫路に建立した寺で、利隆の子の光政が鳥取へ転封されるにあたって鳥取に移されていた。寺号は輝政の院号によっている。以後菩提寺として池田家の尊崇を受け、歴代藩主や関係者の位牌が納められた。現在も江戸時代と同じ場所にある。寺中末寺に清泰院がある。寺名は忠雄の院号にちなみ、彼の菩提を弔うための寺であった。旭川の改修と新京橋の架橋にともない岡山市南区浦安本町に移転した。

## 養林寺

福照院（池田利隆室）の意向を受けて岡山城下塩見町に光政によって建立された。寺名は福照院の父である榊原康政の院号である養林院にちなむ。光政と勝子（本多忠刻女、光政室、円盛院）の子である綱政は、後にこの寺に御霊屋おたまやを設け、福照院・円盛院・天樹院（徳川秀忠女、本多忠刻室）の位牌とともに、自分の妻である真証院（丹羽光重女）の位牌を納めている。寺領 200 石は備中にあった福照院の化粧料のうちから与えられた。養林寺は、いわば池田家の妻たちの功績に報いる寺であった。文久元年（1861）の岡山城下図では存在が確認できるが、明治以降の動静は未詳。

## 曹源寺

山号の護国山は恒興の院号である護国院にちなみ、寺名は綱政の戒名にちなんでいる。元禄 11 年（1698）に国清寺の絶外和尚を開山に迎えて創建され、父光政の 17 回忌法要が命日の 5 月 22 日に執行されている。このとき光政に戒名「通源院天室義晃」が贈られた。宝永元年（1704）3 月には綱政の寿陵（生前に造られる墓所）が本堂裏の正覚谷に建てられ、以後歴代藩主の墓所が同地に営まれる。現在は国指定の史跡となっている。

## 円務院

綱政の命により、祈願所として城内石山に御廟に隣接して建てられた。宝永 4 年（1707）10 月に普請が始まり、翌宝永 5 年（1708）3 月に完成している。山号は金剛山、寺領 200 石。

## 仏心寺

光政の女で一条家に嫁いだ輝子が創建した律院で、それを宝暦 7 年（1757）に継政が寺地を湊村北の操山山麓に移して再興した。寺領 100 石。本堂には光政の位牌と綱政の画像を納め、方丈には継政の画像が懸けられた。継政はこの寺の興隆を図ろうとしたが、曹源寺との関係を危ぶんだ子の宗政や家臣に諫められて思い止まったという。今も同地に現存する。

## 敦土山和意谷墓所

光政が儒教式に先祖を祀るために設けた墓所。和気郡脇谷村の山中に津田永忠を奉行として造営され、敦土山と名づけられた。寛文 7 年（1667）に京都妙心寺から輝政・利隆の遺骸が移され、その後は光政をはじめ母（福照院）・妻（円盛院）・弟恒元などを祀っている。光政以外は戒名もあり仏式でも祀られていたが、光政についても綱政の命によって戒名が贈られ、位牌が曹源寺に祀られた。ただし以後も藩主による参詣（代参を含む）は継続された。現在は国指定の史跡。

## 領内の寺社

寛文 6 年（1666）光政は村々の「わけもなき小社」（由緒不明のいかがわしい小社）を破壊し、大社や「所之おふすな（産土）」（その土地の鎮守社）だけを残すように命じた。その結果、領内 1 万 1128 社のうち 601 社が残され、他の社は 71 社の寄宮に統合された。ただし、正徳 5 年（1715）の調査では 1570 社になっているから、その後かなりの数のいわゆる村の鎮守が

復活している。

他方寺院の方は、延宝3年（1675）の調査では、有寺<sup>ありでら</sup>438か寺に対して絶寺<sup>たえでら</sup>は598か寺で、江戸時代前期に存在した寺院の58%が光政時代に淘汰されたことになっている。寺院数は約40年後の正徳5年（1715）でも462か寺で、貞享4年（1687）に檀那寺による宗旨請けに完全復帰した後にもほとんど増加していない。この動向には、元禄5年（1692）以来幕府が新しい寺院の建立を禁止する政策をとっていたことも影響しているだろう。ただし廃寺の再建は認められていたから、曹源寺も児島郡郡村にあった永昌庵を再建するという名目で建立された。

江戸時代以前の寺社は、一般の人びとの篤い信仰を集めるとともに、荘園領主として巨大な力を持っていた。その力を背景に武家と敵対することも少なくなかった。徳川幕府はその勢力を削ぎ、権力に奉仕する存在とするために、統制と保護という「アメとムチ」の政策を行った。こうした政策を行うために幕府には寺社奉行が置かれたが、各藩でも同じように寺社奉行が置かれ、領内の寺社に対するさまざまな行政を担当した。岡山藩でも寺社奉行が置かれ、奉行はほぼ一人制で、200石から300石前後の中堅家臣が任じられた。また、日々の寺社行政を記録するために「寺社留」などの帳簿が作られた。

なお、藩主が参詣するなど池田家と関係の深かった領内の神社には次のようなものがある。

### 東照宮

現在は玉井宮・東照宮。正保2年（1645）光政が将軍家光の特別の許可を得て東山に勧請した。藩による庇護を受けるとともに、城下町のうち12町が氏子に指定された。祭礼は家康の命日である4月17日か9月17日に行われ、城下町の北に設けられた御旅所まで神輿渡御行列が城下町を縦断した。この行列には多くの家臣や町人が参加し、城下町最大の祭礼であった。山麓に社僧寺の松客寺利光院があり、寺領300石。

### 酒折宮

現在は岡山神社。もと岡山にあったものを宇喜多直家が岡山城を造営するにあたって現在地に移した。歴代岡山城主の庇護を受け、延宝2年（1674）には綱政から社領300石を寄進されている。社僧寺として平福院・実成院・福寿院があった。

### 伊勢宮

現在は伊勢神社。城下町広瀬町にある。延喜式神名帳にみえる御野郡伊勢神社に比定される。江戸時代には社領10石が与えられていた。

### 一宮

現在は吉備津彦神社。歴代藩主によって吉備津宮として尊崇され、延宝2年（1674）に社領300石を寄進されている。また、延宝6年（1678）に輝武命（恒興）・火星照命（輝政）が相殿に祭られることになり、供料50石が寄進された。元禄10年（1697）には綱政によって社殿が造営され、この年から流鏝馬<sup>やぶさめ</sup>が始められ、神馬も牽き渡された。摂社の子安神社は元禄16年（1703）に綱政によって修造された。

### 八幡宮

現在は八幡神社。上道郡八幡村にある。延宝2年（1674）に社領17石余が寄進されている。延宝5年（1677）に綱政が社殿を再興し、正徳5年（1715）には社領60石とある。

### 祇園宮

現在は素盞鳴神社。上道郡祇園村にある。正徳2年（1712）綱政によって再興された。八幡宮とあわせて参詣された。

以上述べてきたことから、岡山藩領域における寺社の発展にとって、綱政の果たした役割が大きかったことをうかがうことができる。

岡山大学 特命教授 倉地克直

## 1 美濃龍徳寺及京都各墓所略図書類等

T11-147 1袋

明治20年(1887)に池田家職員(記録方・調度方兼役)三宅貞久が美濃と京都にある池田家ゆかりの寺院に参詣した報告書類。1袋に絵図6点と書付6点が入られている。

### 1-1 記

T11-147-7 1通 明治20年(1887)6月  
三宅貞久→桑原誠太郎 23.8×33.6

墓所参詣から帰った三宅貞久が池田家準家扶桑原誠太郎に提出した書類・絵図を書き上げた書付。

### 1-2 龍徳寺旧記抜書

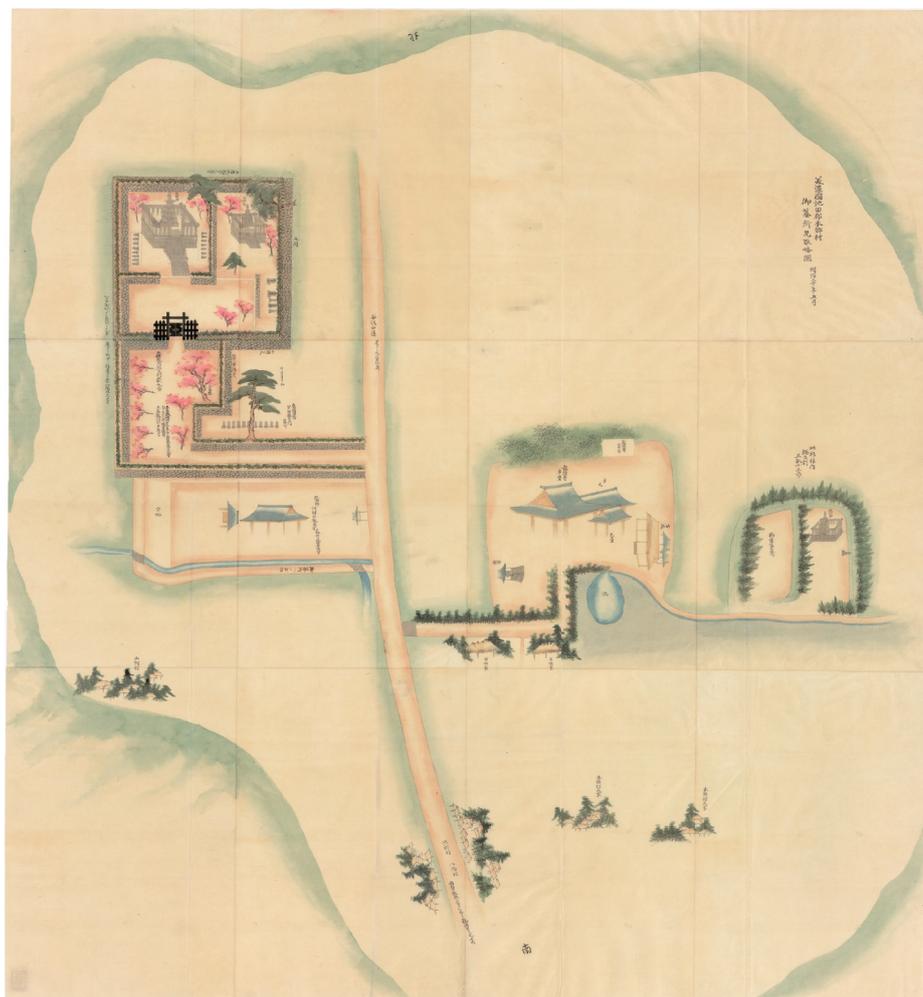
T11-147-3 1冊 年代未詳  
24.1×16.8

「龍徳寺旧記」から同寺に伝来した古文書の写などを抜き書きしたもの。天正14年4月付け池田照政安堵状などが写されている。火災のため原本は現存しないとのこと。

### 1-3 美濃国池田郷本郷村御墓所見取略図

T11-147-12 1枚 明治20年(1887)5月  
117.0×107.0

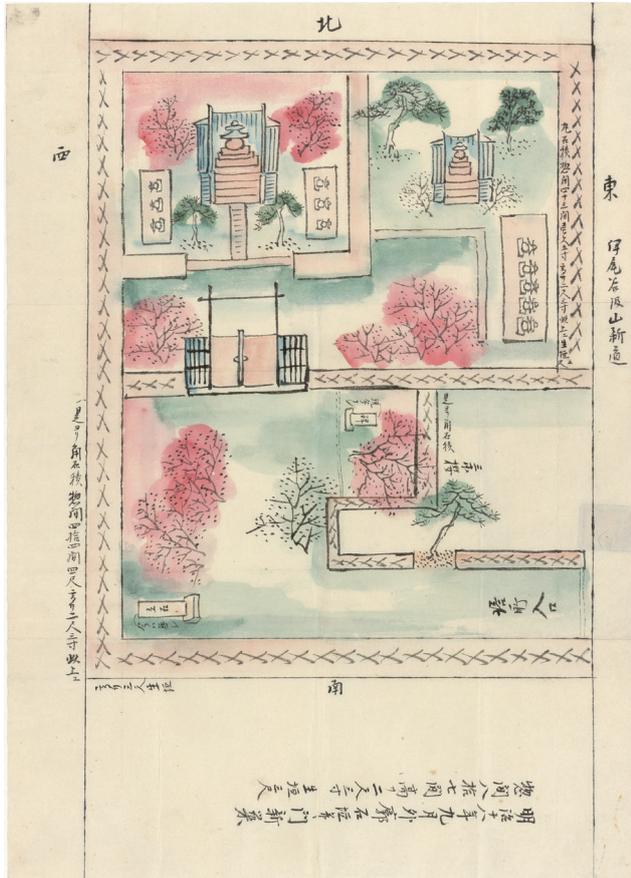
龍徳寺境内を描いた絵図。本堂の東に恒利墓所、西北に「信輝」(恒興)・「之助」(元助)の墓所がある。烈忠塔には「片桐与三郎」「古田甚内」の名が見える。



### 1-4 龍徳寺墓所石垣并門新築之図

T11-147-5 1枚 年代未詳  
43.2 × 30.7

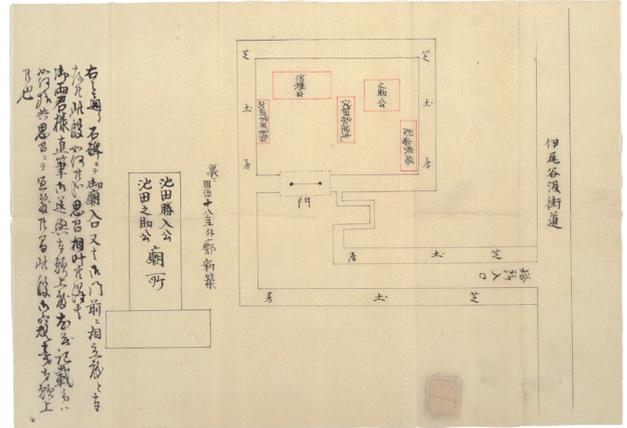
明治18年(1885)9月に恒興・元助の墓所の外郭石垣と門を新築した様子を描いた絵図。東側と西南側は二、三尺の石積みの上に三尺の生垣があった。



### 1-5 龍徳寺墓所石碑建立之図

T11-147-4 1枚 年代未詳  
28.1 × 40.1

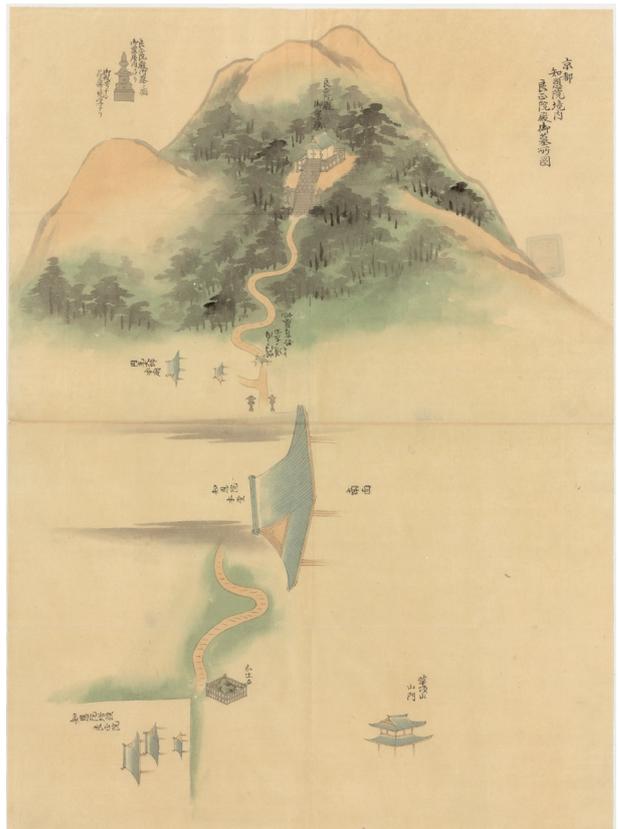
墓所入り口に「池田勝入公・池田之助公廟所」の石碑を建立したいと願った図。



### 1-6 京都知恩院境内良正院殿御墓所図

T11-147-10 1枚 年代未詳  
53.8 × 39.2

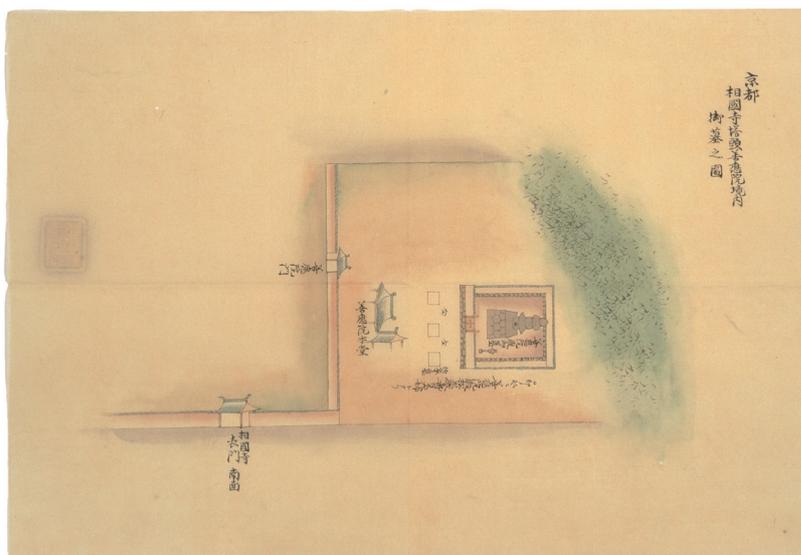
知恩院本堂東の山中に良正院(徳川家康女、池田輝政後室)の御霊屋が描かれている。境内西方には塔頭の良正院がある。



## 1-7 京都相国寺塔頭善 応院境内御墓之図

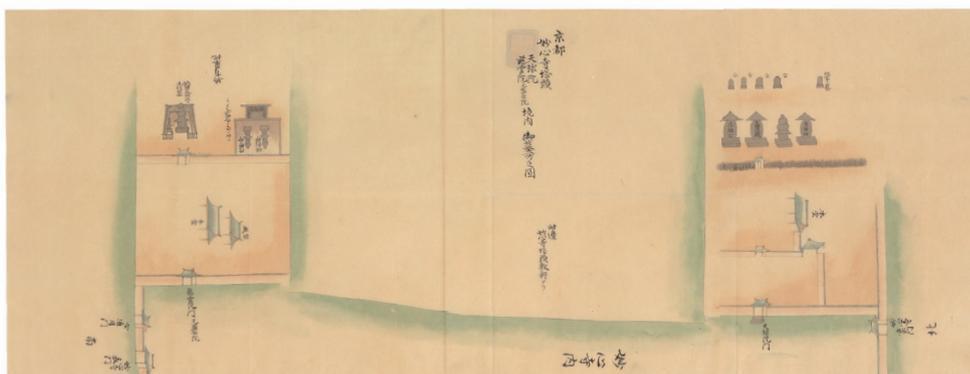
T11-147-6 1枚 年代未詳  
27.2 × 39.3

相国寺塔頭善応院にある善応院（荒尾善次女、池田恒興室）の墓所の様子を  
描いた図。



## 1-8 京都妙心寺塔頭天球院・慈雲院境内御墓所之図

T11-147-9 1枚 年代未詳  
27.1 × 71.1



慈雲院（元盛岳院）に  
恒利・信輝（恒興）お  
よび池田元信（元助子）  
の墓が、天球院に池田  
忠継・忠雄および天球  
院（池田恒興女、山崎  
家盛室）の墓がある。

## 2 龍徳寺御参詣御供引請書付

P1-274 1袋

嘉永2年（1849）4月に藩主池田慶政が江戸から帰国する際に龍徳寺に参詣したときの記録類。徒頭<sup>なかも</sup>中間が作  
成し相伝したもの。18点が1袋に入っている。

### 2-1 御廟御参詣之節行列

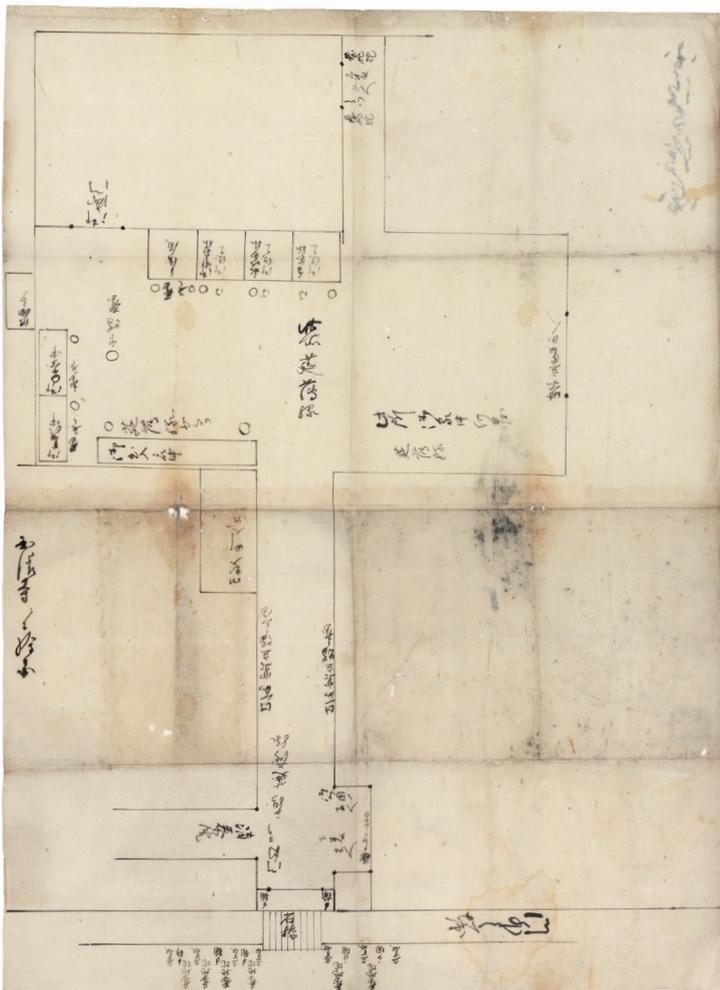
P1-274-1 1冊（嘉永2年（1849）4月）  
166 × 74

龍徳寺廟所参詣行列の次第を書いたもの。「輿」に藩主慶政が乗る。

### 2-2 龍徳寺江御出之節御供上下人数

P1-274-16 1通（嘉永2年（1849）4月）  
徒頭 15.8 × 63.4

徒頭が廟所参詣の人数を書き上げたもの。参勤行列の供のうちから選抜され、総勢162人となっている。



### 3 国清寺絵図

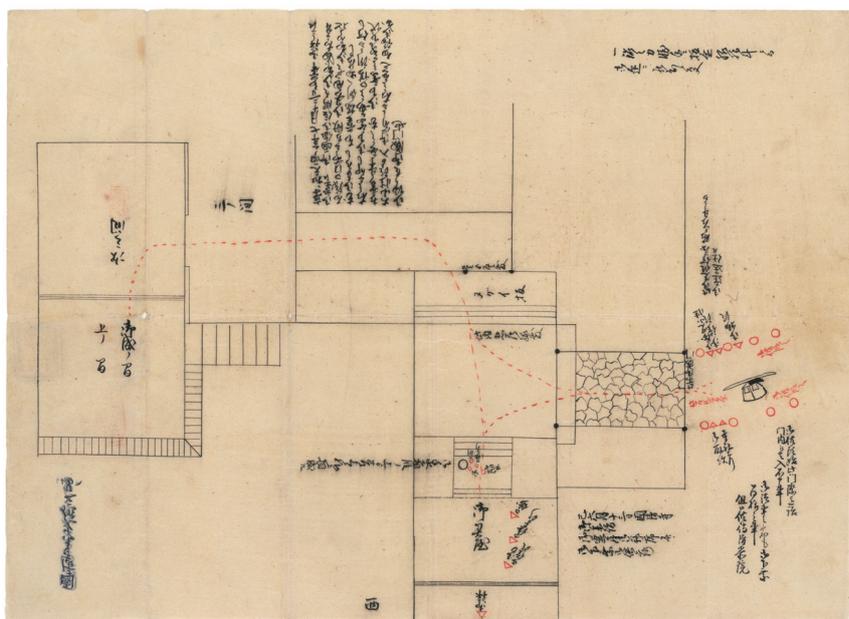
T11-26 1枚 年代未詳  
61.8 × 44.6

藩主の参詣にあたって、<sup>うすべり</sup>薄縁などの設営や詰役の配置などを示した絵図。石橋を渡り門を入った左手に「清泰院」とある。

### 4 国清寺御先供之図

T11-70 1枚 年代未詳  
27.5 × 37.8

巳六月十三日の藩主参詣に際して、先供揃えを描いた図。藩主の参拝経路が朱点線で示されている。



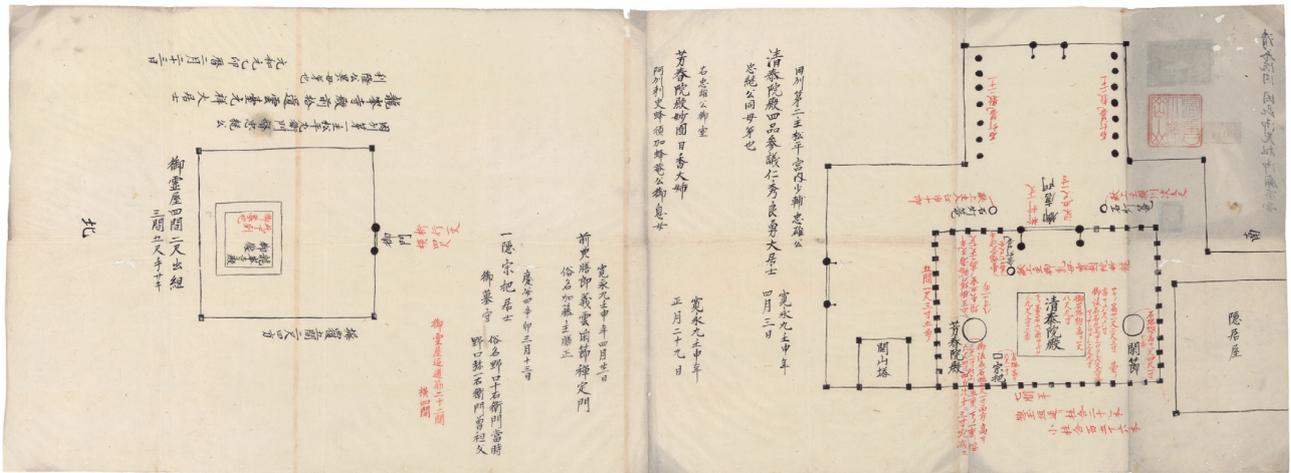
### 5 稲葉源十郎宛国清寺口上書

P1-263 1通 慶応4年(1868)正月25日  
17.5 × 52.9 包紙入

御一新改革にあたり、国清院(輝政)・大義院(輝政室・利隆母)・興国院(利隆)に養源院(恒利)を加えて一所に施餓鬼を行いたいとの願い。稲葉源十郎は大目付。

## 6 清泰院内因州様御先祖御廟所図

T13-27 1枚 年代未詳  
39.6 × 108.5



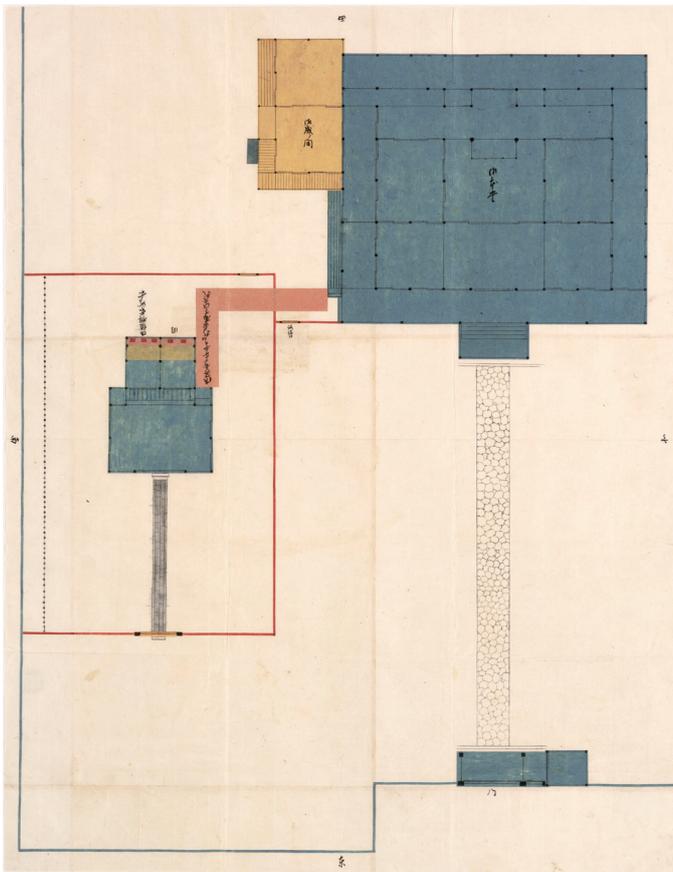
清泰院は国清寺の寺中にあった。図中左方に龍峯寺殿（忠継）の御霊屋、右方に石垣に囲われた清泰院殿（忠雄）の石塔が描かれている。

## 7 養林寺絵図

T11-20 1袋

### 7-1 養林寺本堂御霊屋指図

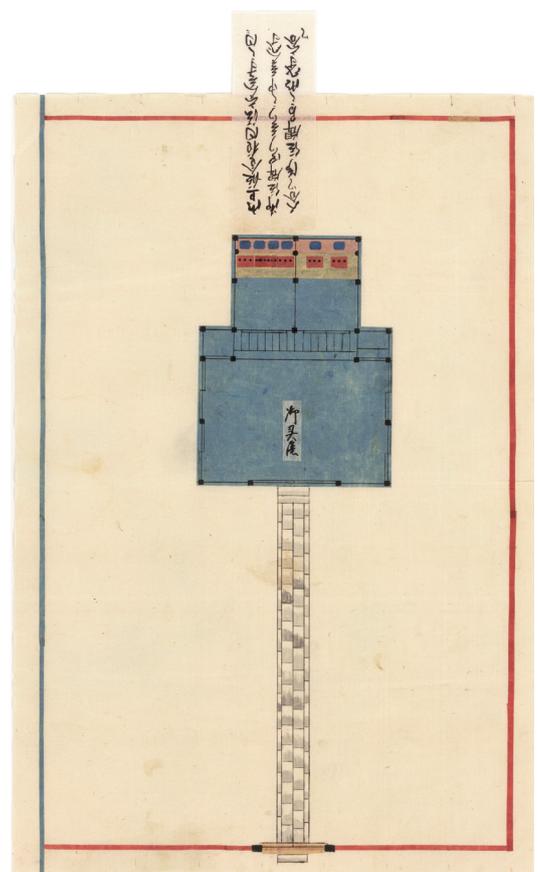
T11-20-1 1枚 年代未詳  
93.8 × 72.2



養林寺の本堂と御霊屋の指図。本堂と御霊屋を結ぶ打廻廊下の設置を願い出たときのもの。廊下の設定が薄柿色の貼紙で示されている。

### 7-2 養林寺御霊屋指図

T11-20-2 1枚 年代未詳  
45.7 × 30.2

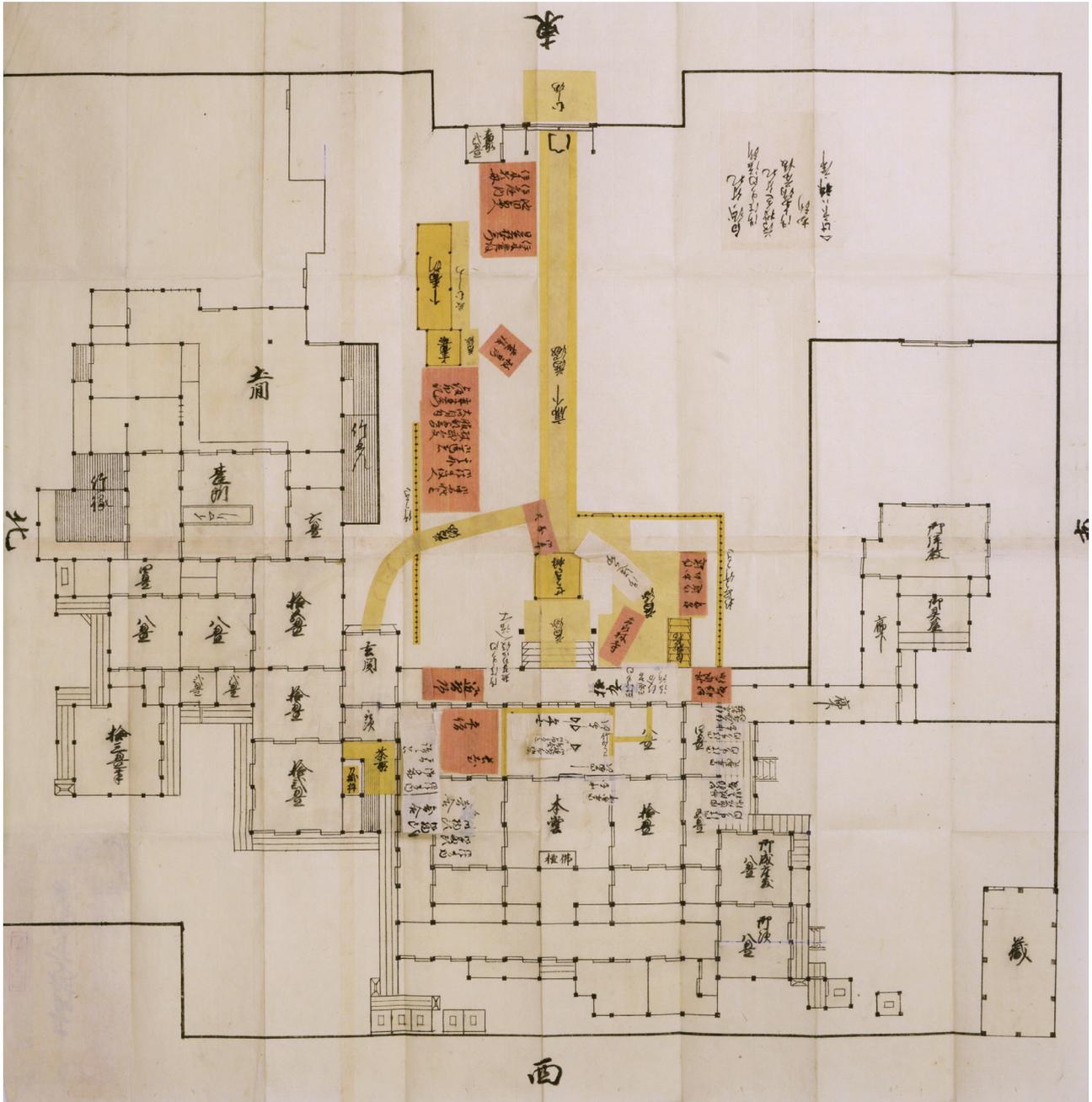


御霊屋の位牌の配置について指示した図。位牌の数は向かって左側に一鉢増えている。

## 8 養林寺参詣図

P1-436 1枚 年代未詳  
55.7 × 55.5

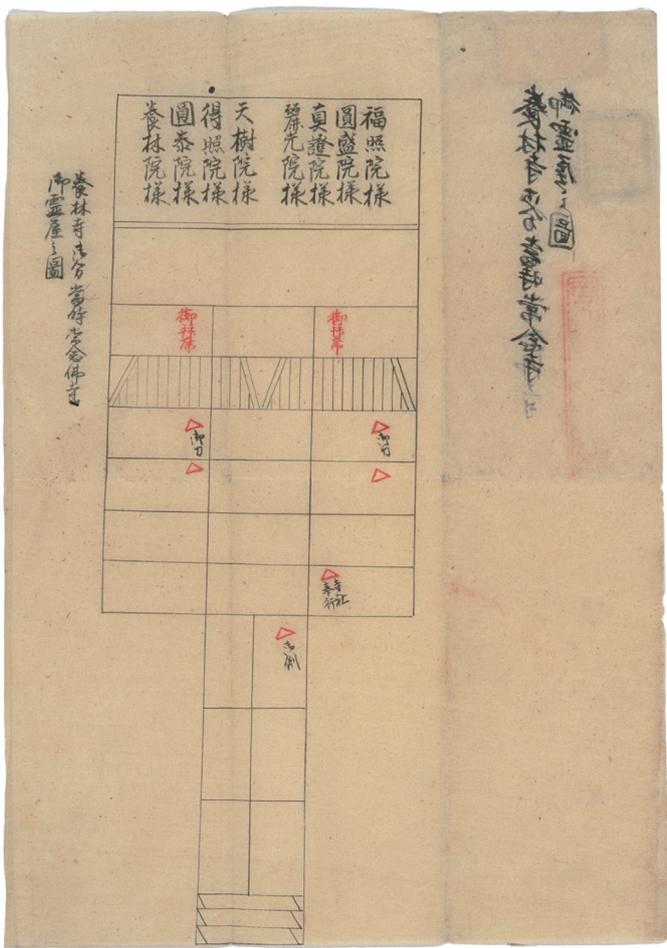
藩主が養林寺に参詣するに際して、薄縁・むしろなどの設営を黄色紙、法事の時の詰所を白紙、参詣前後の家臣の配置などを薄柿色紙を貼って示したもの。



## 9 養林寺記録

P1-312 1冊 明治22年(1889)2月25日写  
27.8 × 18.8

養林寺創建以来の由緒・経巻・什物などについての記録。文政年間(1818~30)ころに第11世伝空が記したものを明治22年(1889)に写したもの。



### 10 養林寺御分当時常念仏寺御靈屋之図

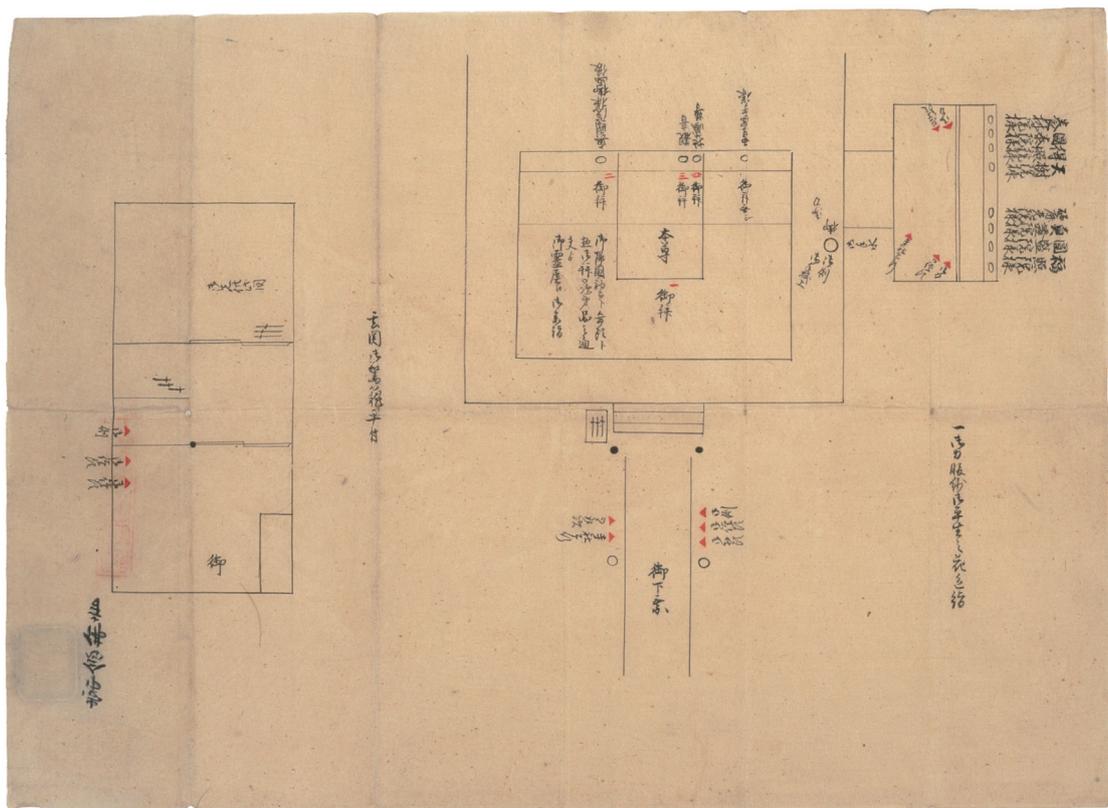
T11-139 1枚 年代未詳  
27.0 × 18.8

寛政6年(1794)7月養林寺が火事で焼失、位牌は門田村の常念仏寺に移された。その常念仏寺に藩主が参拝したときの先徒・詰役の配置図。徒頭中間に伝わったうちの1枚。

### 11 常念仏寺絵図

T11-141 1枚 年代未詳  
27.6 × 37.7

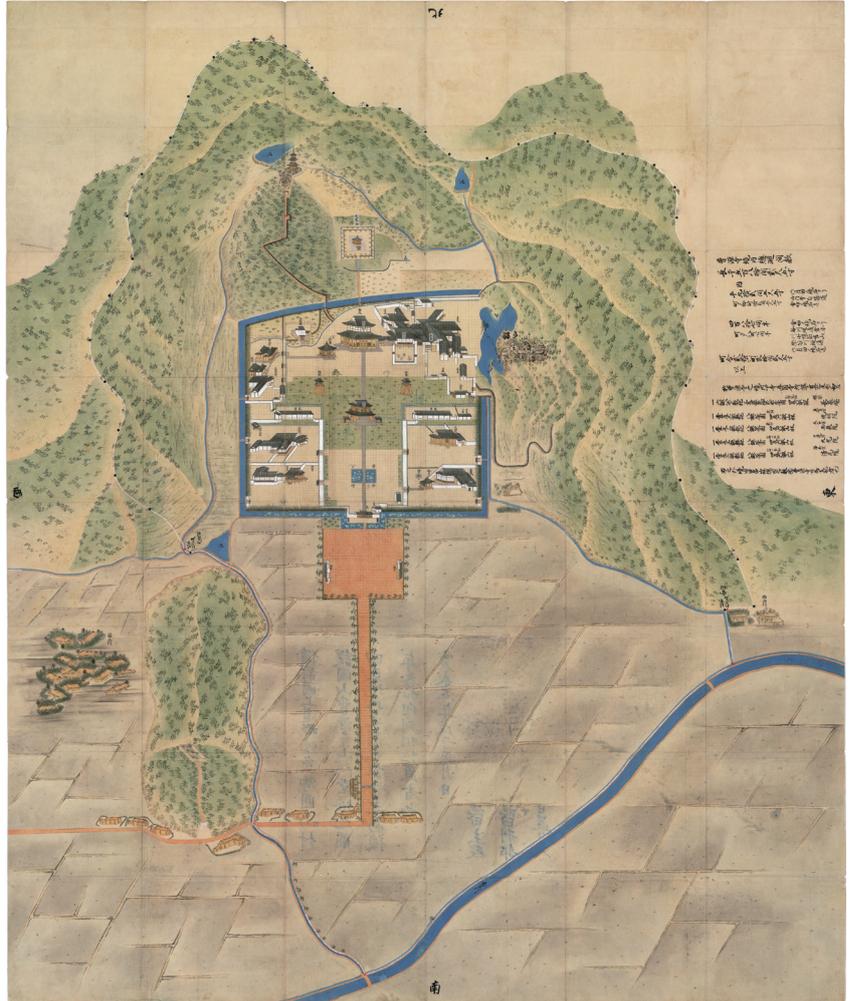
常念仏寺の本堂・御霊屋を藩主が参詣した際の供揃えの配置を示した図。本堂正面向かって左に興國院(利隆)画像が掛けられている。



## 12 円山全図

T11-18 1枚 宝永5年(1708)正月  
池田主殿・池田刑部・日置隼人  
222.4 × 185.0

曹源寺の境内全体を描いた図。周囲の境界線に傍示が描かれている。裏書に、「備前国上道郡幡多郷円山村護国山曹源寺山門堂塔之図、四至境内之間数詳書之、為後年各加印判相極置者也／宝永五年戊子正月 日／池田主殿／池田刑部／日置隼人」とある。境内惣廻り間数長1580間2尺5寸とある。



## 13 護国山曹源寺江被下御判物之扣

P1-227 1通 元禄11年(1698)5月22日 左少将綱政→曹源禅寺  
46.6 × 65.6 包紙入

綱政が曹源寺に寺領260石を寄進した判物の扣。

## 14 護国山曹源寺寺領目録扣

P1-226 1通 元禄11年(1698)5月22日 日置猪右衛門・池田鞞負  
34.0 × 105.3 包紙入

寺領260石の配分について指示した目録の扣。差出人の日置・池田は仕置家老。

## 15 曹源寺記録

P1-189 1冊 元禄10年～宝永5年(1697～1708)  
27.6 × 20.4

児嶋郡郡村の永昌庵を再建するかたちで曹源寺の建立を発願するところから、惣絵図が下賜されるまでの出来事を記した記録。

## 16 円山正覚谷塔図

T13-77 1枚 年代未詳  
79.1 × 31.2

元禄15年(1702)に建立された曹源寺三重塔の指図。岡山藩大工棟梁鳥羽六郎右衛門正良がその外観や構造について覚として書き留めたもの。



## 17 円山御廟所見取図

T11-38 1枚 年代未詳  
48.0 × 83.1 袋入

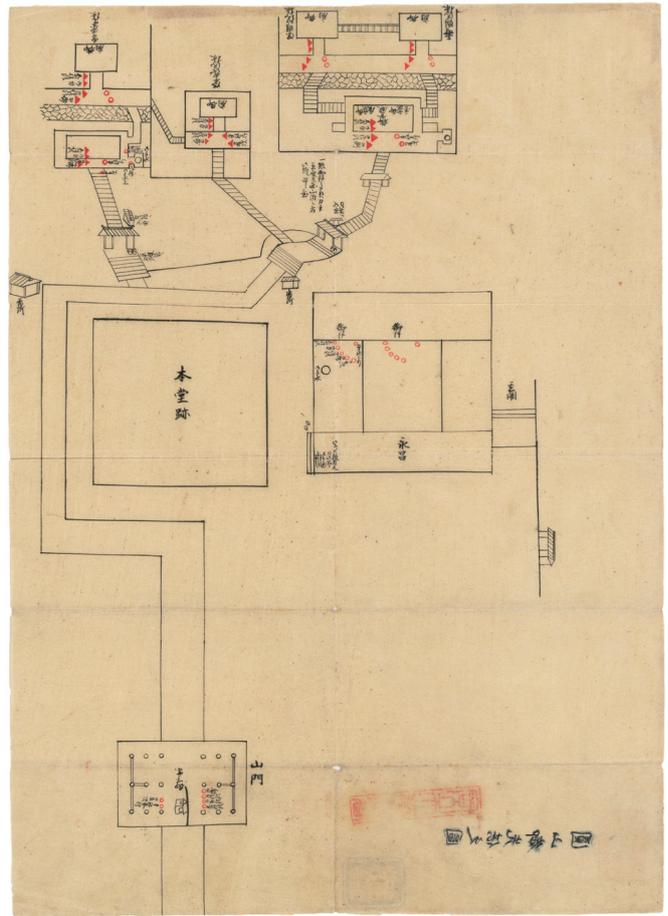
創建当所の墓所には、綱政の寿蔵（生前に建てられた御霊屋）があるのみであったが、その後次第に藩主などの御霊屋が増設された。



## 18 円山御先供之図

T11-78 1枚 年代未詳  
38.5 × 27.4

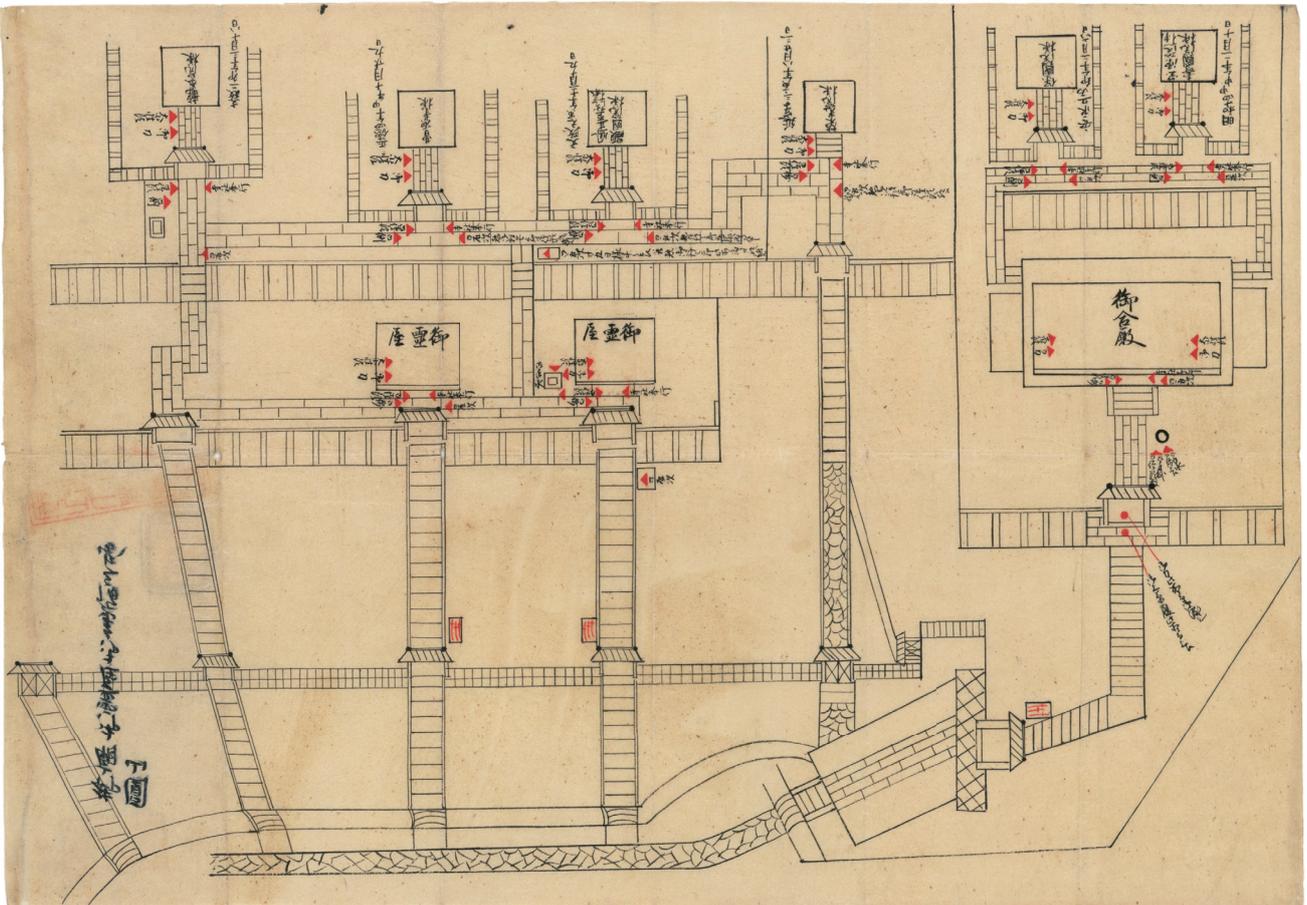
曹源寺の廟所に藩主が参詣する際の先供の配置図。  
曹源寺（綱政）、栄光院（綱政側室、継政母）、保  
国院（継政）、寿国院（宗政）の御霊屋が見えるか  
ら、治政が藩主のときのものか。



## 19 円山御廟御霊屋御参詣之図

T11-85 1枚 年代未詳  
27.3 × 38.8

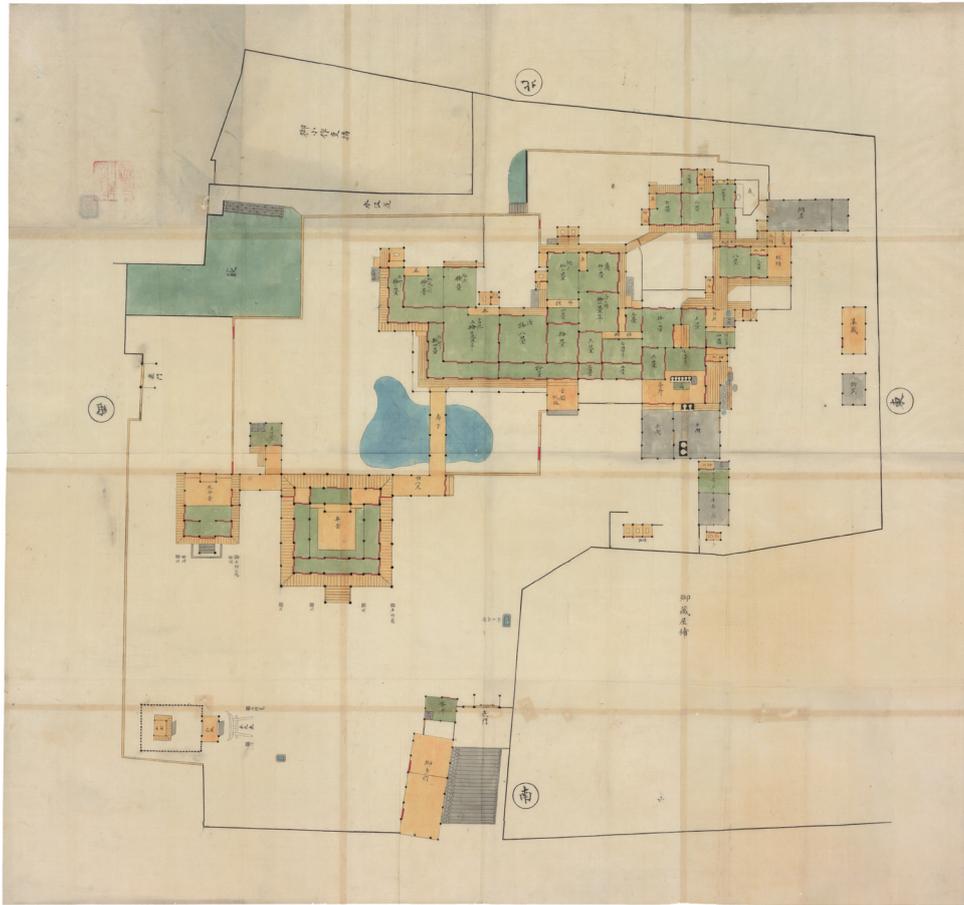
曹源寺の廟所に藩主が参詣する際の先供の配  
置図。顕国院（治政）、龍泰院（斉輝）の御霊  
屋が見えるから、斉政が藩主のときのものか。



## 20 内山下石山円務院図

T11-146 1枚 年代未詳  
102.8 × 108.9 包紙入

石山に建てられた円務院の指図。東側が御廟に接し、西側は道を隔てて西丸である。



## 21 仏心寺正殿絵図

T11-144 1包

### 21-1 仏心寺正殿普請指図

T11-144-2 1枚 年代未詳  
27.8 × 39.0

懸紙で仏間の改築を指示しており、懸紙をあげた状態がもとの正殿の様子である。

### 21-2 仏心寺正殿指図

T11-144-1 1枚 年代未詳  
27.9 × 40.3

仏間を改築した後の正殿の図。徒頭に伝わったもので、先供の配置に使われる予定であったか。

## 22 仏心寺縁起

P1-233 1通 宝暦7年(1757)3月4日 空山  
36.4 × 98.8 包紙入

仏心寺の縁起を記したもの。包紙に「御筆之物御扣」「私ニ不可披」とあるから、空山(継政)の自筆か。

## 23 敦土山図

T11-47 1枚 年代未詳  
79.4 × 105.3

和意谷墓所の全景を描いた見取図。御茶屋などの建物には、付紙で部屋の広さが示されている。藩主などの参詣に備えたものか。端裏には「寛政年紀」（1789～1801）と記されている。



## 24 備前備中御領分寺数帳

P1-373 1冊 延宝3年（1675）  
14.2 × 20.5

領内の寺院について、現存する寺数（有寺）と光政の排仏政策によって廃絶した寺数（絶寺）に分けて郡別・宗派別に書き上げたもの。前年の延宝2年（1674）12月に宗旨請けは神職請でも寺請でも「心次第」とされた。それに合わせて作成されたものか。

## 25 御国中神社記

P1-321 1冊 延宝3年（1675）11月4日  
7.0 × 20.2

領内の神社について、由緒・社領や神職について書き上げたもの。郡ごとに神職頭が提出したものを惣神職頭がまとめている。作成事情は24に同じか。

## 26 備前備中領分之内寺社領判物之扣

P1-237 1冊 延宝2年～延宝6年（1674～78）  
40.8 × 14.6

綱政の代替わりにあたり、延宝2年（1674）2月朔日付で領内寺社領の判物が遣わされた。その写を帳面に仕立てたもの。

## 27 備前岡山城下諸郡共并備中領分寺社数寺社領書上

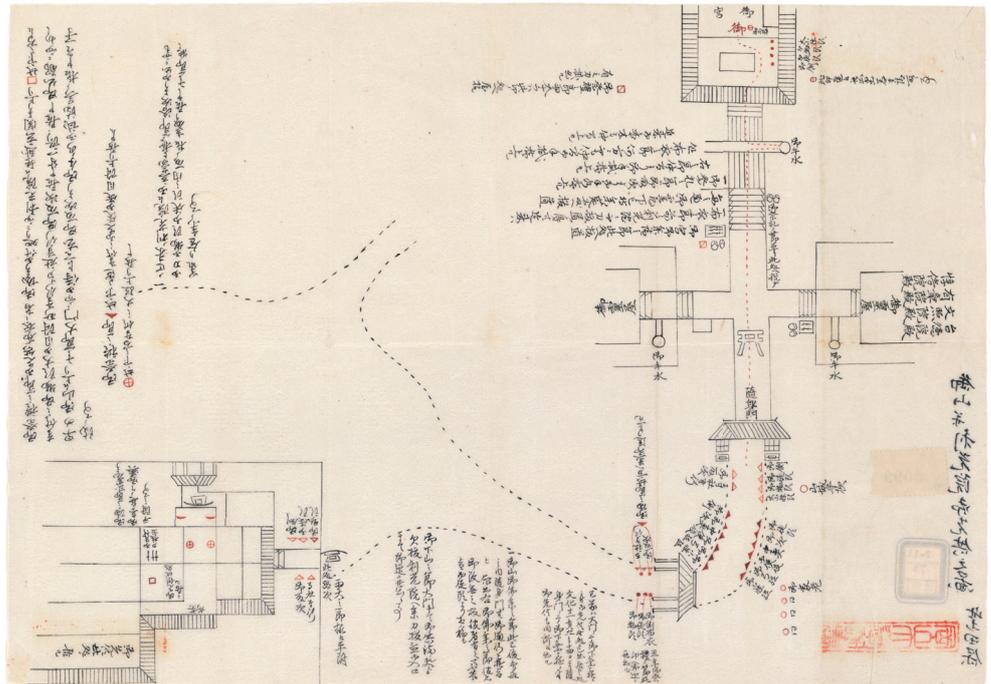
P1-218 1冊 正徳5年（1715）7月  
28.3 × 20.1

領分中の寺社について、その数と領地高を郡別に書き上げたもの。領内全体では、社数1570社、社領1500石5升2合、寺数467寺、寺領2799石3斗5升9合、となっている。

## 28 御山并利光院御先供之図

T11-73 1枚 年代未詳  
27.5 × 39.2

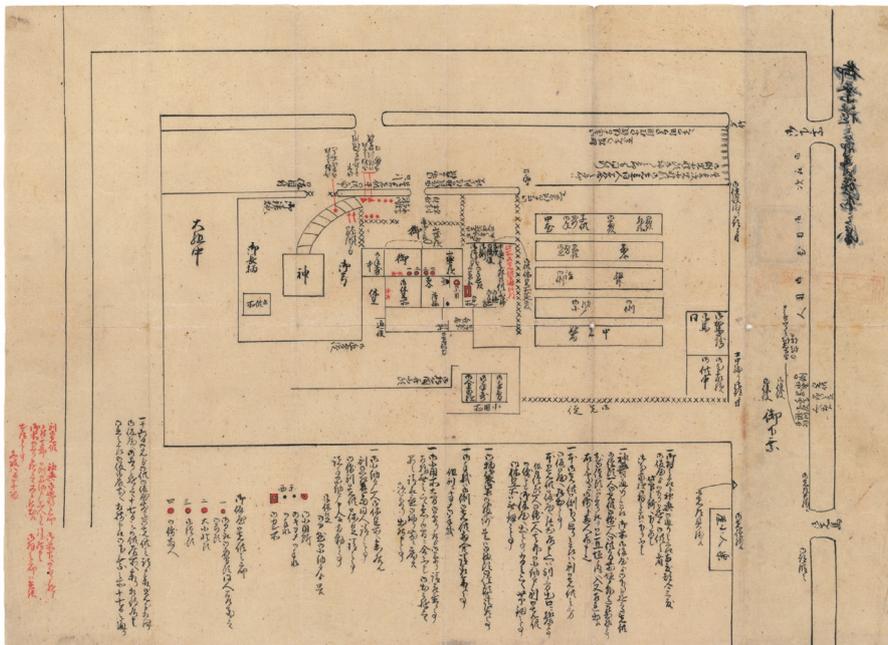
藩主が東照宮および利光院を参詣する際の供・詰役の配置を示した図。徒頭中間に伝えられた1枚で、端裏に「柴田保」とある。



## 29 御祭礼之節御旅所之図

T11-84 1枚 年代未詳  
27.5 × 37.6

東照宮祭礼の際に藩主が御旅所を参拝した時の先供の図。図中の書込によれば、文政8年(1825)のものか。「留帳」によれば、この年9月17日の祭礼当日、藩主斉政は御山に参拝せず直接に御旅所へ参拝している。



## 30 東照宮御祭礼記

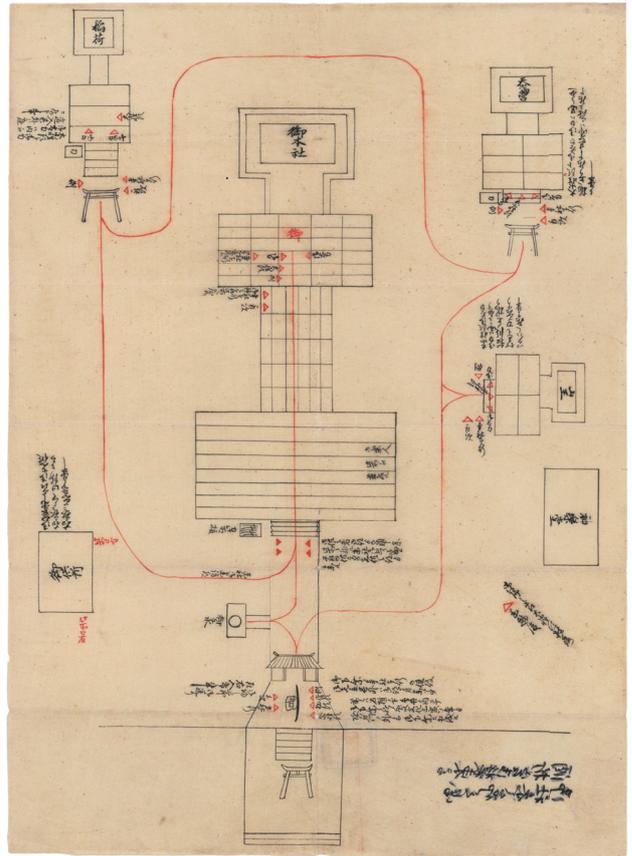
P1-209 3冊 年代未詳 留方  
28.6 × 20.4

留方が作成した東照宮祭礼についての記録。正保2年(1645)の勧請に始まり、翌年から天保11年(1840)までの祭礼の大概が記されている。

### 31 酒折宮御装束ニ而御社参之節之図

T11-95 1枚 年代未詳  
37.9 × 27.4

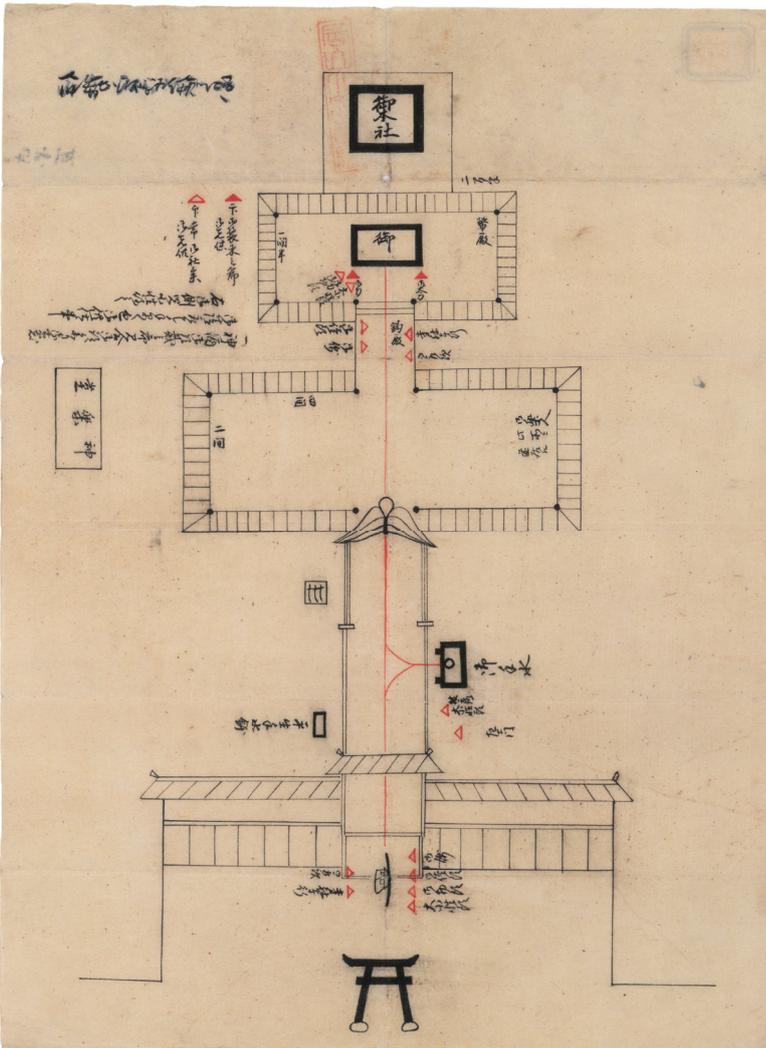
藩主が参詣する道筋を朱線で示し、先供や詰役の配置を朱の三角印などで示している。徒頭中間に伝えられた図面の1枚。



### 32 酒折宮社記

P1-305 1通 延享2年(1745)6月 岡舎人  
28.0 × 339.8 包紙入

神主の岡舎人が酒折宮の由緒を記したもの。奉幣使として宇佐八幡に遣わされた飛鳥井雅重が帰路に酒折宮を参拝した際に作られたものか。継政が産神として敬い、元文5年(1740)に社殿を建立したことも記されている。



### 33 伊勢宮御先供之図

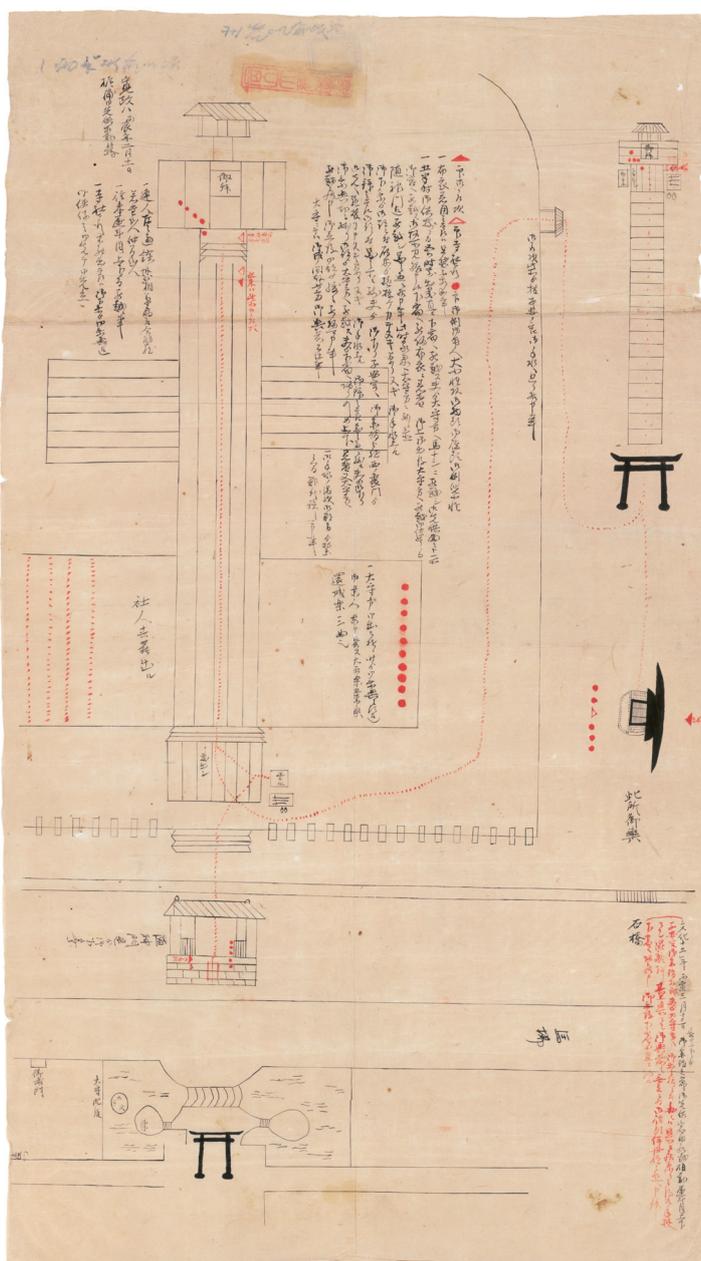
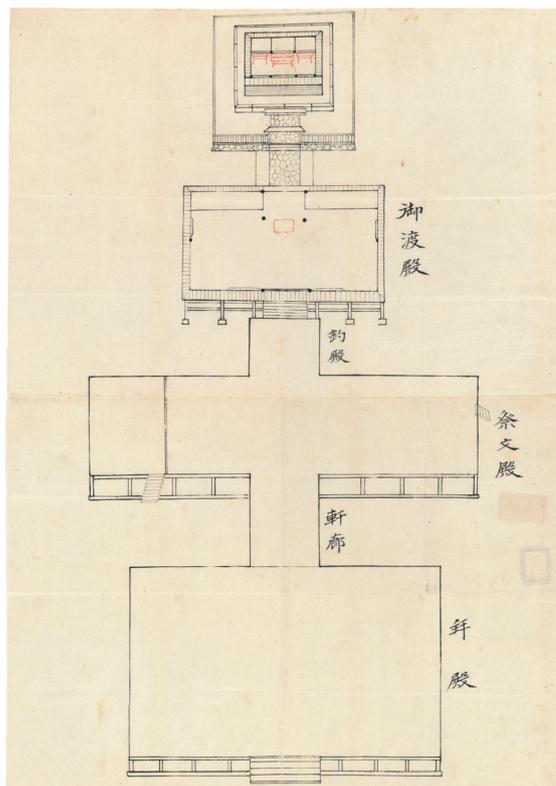
T11-87 1枚 年代未詳  
37.6 × 27.4

藩主の参詣に際しての先供などの配置を示した図。端裏表題横に「此図宜」と記されている。

### 34 備前一宮絵図

T11-114 1枚 年代未詳  
55.1 × 38.4

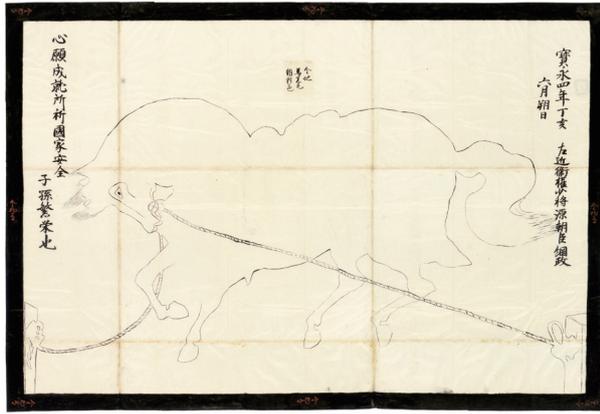
本殿など建物の様子を描いた図。何かの儀式や参拝などに備えた下図か。



### 35 一宮御先供之図

T11-97 1枚  
文化15年(1818)3月12日  
61.6 × 34.2

藩主の参詣に際して先供などの配置について先例を示した図。図中に「寛政八丙辰年二月十一日梶浦先供相勤候格」とか「文化十五年丙寅三月十三日御参詣之節御先供岩田罷越相勤」とか書込がある。端裏には「生形御弓組与頭ノ図」と記されている。



### 36 一宮御絵馬写

T11-17 1枚 宝永4年(1707)6月朔日  
65.5 × 94.3 包紙入

綱政が宝永4年6月朔日に奉納した絵馬の写。



### 37 子安神社御絵馬写

T11-13 1枚 宝永4年(1707)6月朔日  
29.4 × 39.5 包紙入。

綱政が宝永4年6月朔日に奉納した絵馬の写。

## 38 大守肥後守書付式通

T11-15 1包

### 38-1 書上

T11-15-1 1通 午年4月9日 大守肥後守→長谷川九郎大夫 27.4 × 41.7

宝永4年(1707)に絵馬が子安神社に奉納された様子を記した書付。長谷川が寺社奉行を務めた時期から享保11年(1726)と推定される。

### 38-2 書上

T11-15-2 1通 午年4月9日 大守肥後守 27.4 × 41.7

大小2枚の絵馬が一所に箱に入れられて保管されている状況を記した書付。宛先は寺社奉行と思われる。

## 39 一宮御造営留

P1-192 1冊 元禄10年(1697) 27.8 × 20.2

元禄9年(1796)2月に津田佐源太(永忠)に造営が命じられて以来の次第を書き留めたもの。綱政は遷宮後の6月9日に参詣している。

## 40 一宮子安神之書付

P1-244 1通 年代未詳 28.4 × 41.4 包紙入

子安神の由来を記したもの。慶長14年(1609)4月4日の光政誕生にあわせて建立されたこと、寛文12年(1672)に光政の末娘の病氣平癒を祈願して効験あり、社殿・鳥居を建立したこと、元禄14年(1701)に綱政が修復したことが知られる。

## 41 八幡宮御参詣之図

T11-145 1枚 年代未詳 53.0 × 23.0

藩主の参詣に際しての先供などの配置を示した図。参拝が終わった後に祇園宮に参詣すると記されている。

## 42 覚(八幡宮由緒書上)

P1-246-4 1通 年代未詳 30.4 × 94.8 包紙入

神主都築氏の由来、神事式日などについて記したもの。

## 43 上道郡祇園村長守祇園宮御絵図

T11-34 1袋

### 43-1 備前国上道郡祇園宮絵図

T11-34-3 1枚 正徳2年(1712)6月15日  
94.4 × 53.3

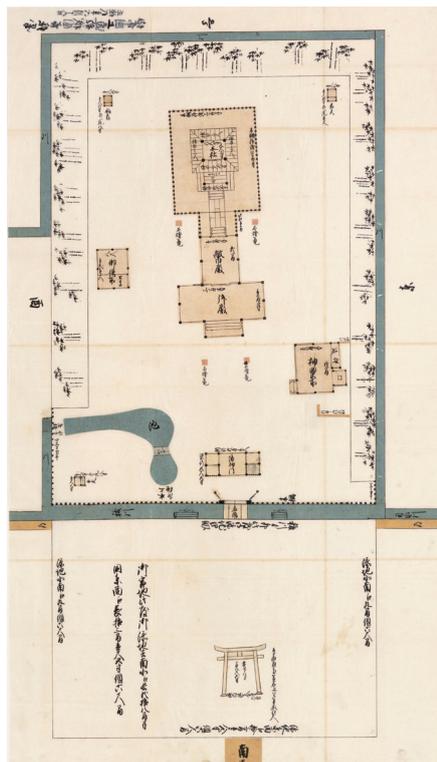
祇園宮の再興に際して社殿の規模や境内の様子を描いた図。

### 43-2 祇園宮覚書

T11-34-1 1通 年代未詳 14.0 × 153.6

綱政が祇園宮を再興した作事の次第について記した書付。作事は2月19日に始まり、6月14日に正遷宮が行われている。

43-1 備前国上道郡祇園宮絵図



## 44 邑久郡千手山絵図

T11-54 1枚 年代未詳  
112.8 × 139.0



千手山弘法寺は中世には邑久郡豊原庄の中心寺院として栄えた。江戸時代には光政によって寺領61石余が与えられ、綱政は山王社・地主権現社に社領100石を寄進した。この境内図には、山上に山王権現社と地主権現社がひととき大きく描かれており、岡山からの道筋や山門からの参道が太い朱線で引かれている。綱政によって両社が建立された元禄10年(1697)頃に描かれたものか。

## 45 邑久郡千手山之絵

T11-53 1枚 年代未詳  
94.5 × 173.0

千手山弘法寺の境内を絵画的に描いた図。堂舎には名前を金泥で書いた濃紺色の貼紙がある。右下方の山上には44には見えない「報恩塚」や「宝蔵岩」なども描かれている。



## 46 山王宮地主権現御造営留

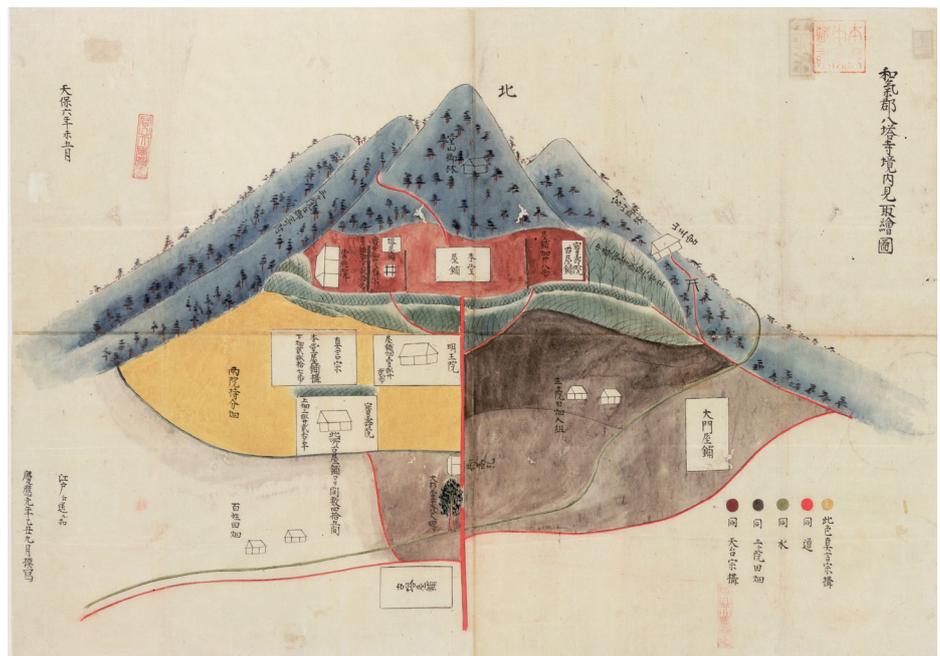
P1-190 1冊 元禄10年(1697)  
28.0 × 20.2

綱政の発願により弘法寺境内に山王社・地主権現社が造営されたときの記録。

## 47 和気郡八塔寺境内見取絵図

T11-33 1枚 慶応元年(1865)9月写  
55.8 × 79.1

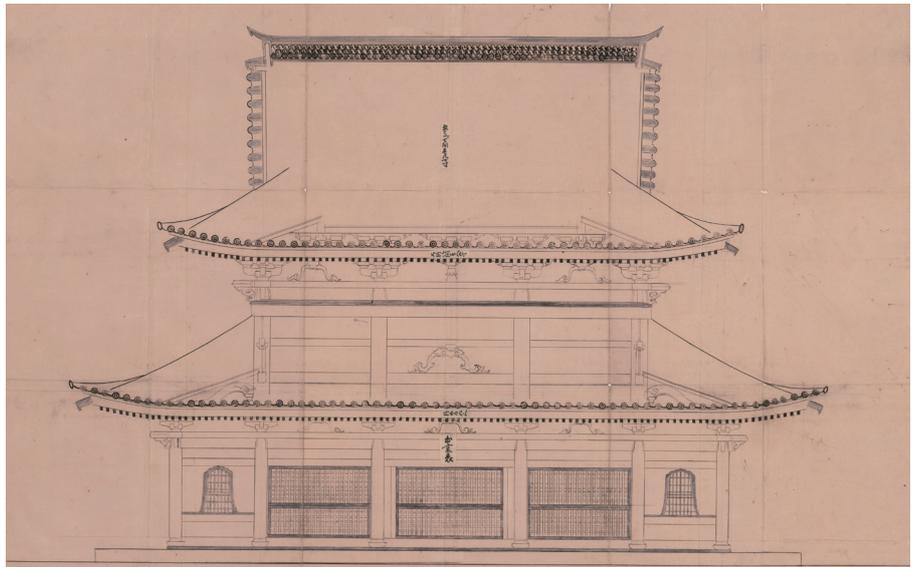
八塔寺は備前・美作・播磨の国境に位置し、古代以来の名刹であったが、戦国時代に戦火にあって一時衰微した。江戸時代に池田忠雄によって堂舎が再建され、寺領36石余が与えられた。常照院・明王院・宝寿院の三院があったが、本坊常照院が天台宗になったため真言宗であった他の二院との間で紛争が絶えなかった。文政11年(1828)の岡山藩の調停によって二院は離山するが、この絵図は最終的に決着した天保6年(1835)5月の様子を描いたもの。



## 48 八塔寺本堂指図

T11-19 1枚 年代未詳  
79.8 × 125.4 袋入

八塔寺は寛政2年(1790)10月の火災で一山焼失した。その後再建に際しての指図か。



## 49 八塔寺本坊寺中離山之一件

P1-387 1冊 文政8年~天保5年(1825~34) 25.0 × 17.6

八塔寺の山内争論は岡山藩寺社奉行石黒後藤兵衛の調停によって収束に向かう。その経過を記した記録。「撮要録後編・寺社部」にも関係史料が採録されている。

## 50 社寺旧記(1)~(47)

P1-80~126 47冊 年代未詳 26.5 × 18.8

藩内寺社に関する重要事項を分類して年代順に書き留めた記録。江戸時代後期に寺社奉行によって留帳などをもとに作成されたと思われる。原本は廃藩によって岡山県に移管され、現在岡山県立図書館に所蔵されている。池田家では明治10年代(1877~86)にそれを借り受けて写本を作成し、それが池田家文庫に所蔵されることになった。

## 51 寺社留

P1-1~13 13冊 元禄4年~宝永6年(1691~1709) 27.0 × 20.6

寺社奉行のもとで藩内の寺社に関する出来事を日次<sup>ひなみ</sup>に書き留めたもの。元禄11年(1698)からは毎年1冊ずつ作られている。

## 52 寺方留

P1-14~45 32冊 宝永7年~寛保元年(1710~41) 27.0 × 20.1

藩内寺院に関する出来事を日次に記したもの。「寺社留」は宝永7年(1710)から「寺方」と「社方」に分けて作成されることになった。

## 53 社方留

P1-46~76 31冊 宝永7年~寛保元年(1710~41) 27.0 × 20.1

藩内の神社に関する出来事を日次に記したもの。作成事情は52に同じ。

## 54 撮要録(22)~(28) 寺社部

A5-22~28 7冊 年代未詳 26.8 × 18.8

「撮要録」は岡山藩の在方支配に関する法令・記録などを分類して編纂したもので、本編30巻は文政6年(1823)までを記載し、後編9巻にはそれ以降の記事を載せている。本編の寺社部7冊は基本的に郡別・地域別に編集されている。他に後編・寺社部1冊がある。



## 55 高野山略図

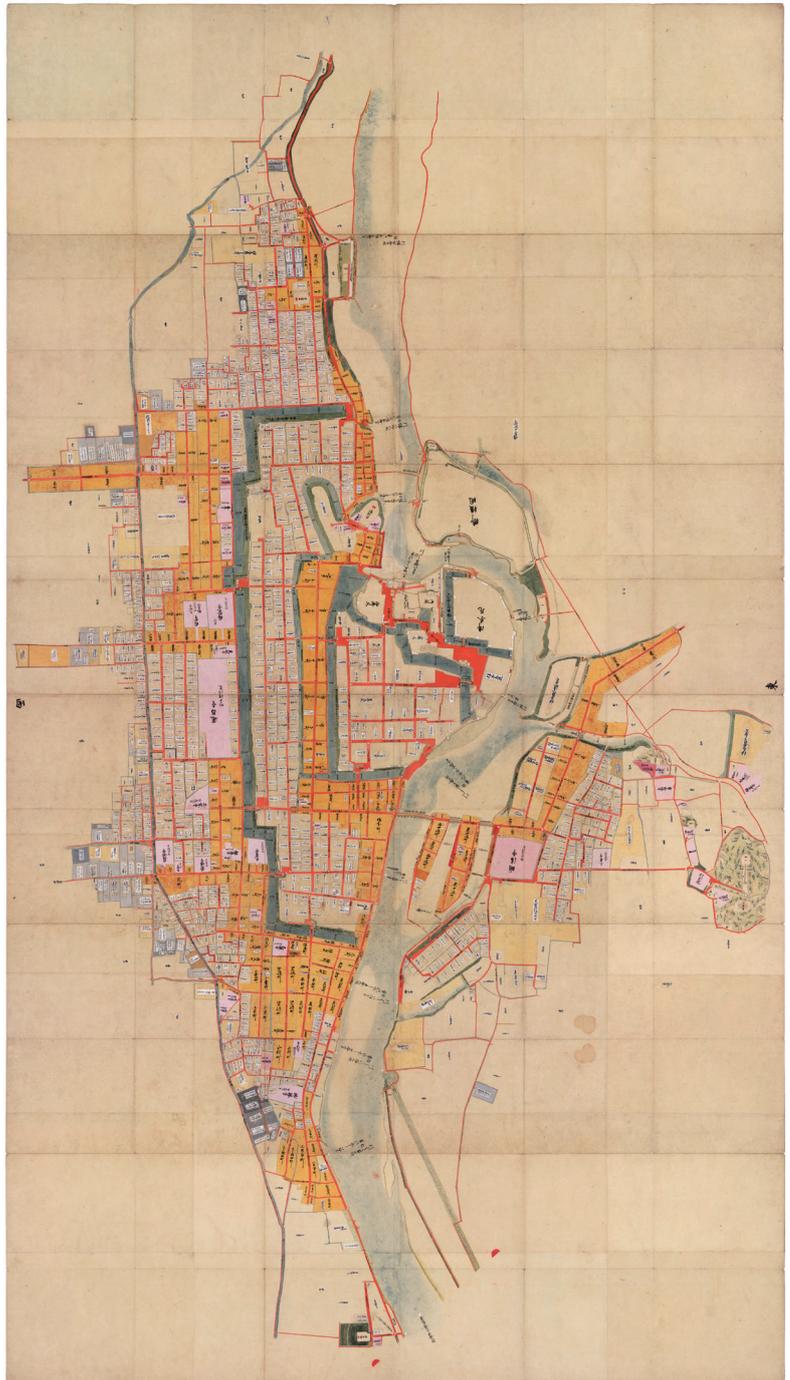
T11-137 1枚  
年代未詳  
40.2 × 66.8

木版多色刷。高野山の全景を描いた参詣案内図。高野山書林牧野儀三郎刊。山内の堂塔・名所だけでなく子院まで細かく記されている。

## 参考 備前岡山地理家宅 一枚図【複製】

T6-32 1枚  
文久元年（1861）5月  
302.4 × 168.3

表紙付き、桐箱入。川下図2枚と畝帳1冊が付いている。江戸時代末期の岡山城下町の様子を知ることができる。



## 池田家文庫絵図展

年度	展示テーマ	会 期	会 場
平成9	絵図にみる岡山城	1997年10月24日～11月2日	岡山大学附属図書館
平成10	岡山藩と海の道	1998年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成11	後楽園と岡山藩	1999年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成12	備前慶長国絵図のふしぎ	2000年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成13	岡山藩江戸藩邸ものがたり	2001年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成14	開けゆく岡山平野 岡山藩の新田開発 (1)	2002年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成15	新田開発をめぐる争い 岡山藩の新田開発 (2)	2003年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成16	岡山城下町をあるく	2004年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成17	江戸時代の岡山 池田家文庫絵図名品展	2005年9月29日～10月10日	岡山市デジタルミュージアム
平成18	戦さと城	2006年10月26日～11月12日	岡山市デジタルミュージアム
平成19	陸の道	2007年11月16日～12月2日	岡山市デジタルミュージアム
平成20	日本と「異国」	2008年11月1日～11月16日	岡山市デジタルミュージアム
平成21	岡山藩の教育	2009年9月29日～10月18日	岡山市デジタルミュージアム
平成22	絵図にみる中国四国地方の城下町	2010年11月16日～11月28日	岡山市デジタルミュージアム
平成23	江戸時代の巨大手描き絵図	2011年10月22日～11月6日	岡山市デジタルミュージアム
平成24	日本六十余州図の世界	2012年11月10日～11月25日	岡山シティミュージアム
平成25	開国と岡山藩	2013年11月4日～11月17日	岡山シティミュージアム
平成26	岡山藩と明治維新	2014年11月1日～11月16日	岡山シティミュージアム
平成27	京都と岡山藩	2015年10月24日～11月8日	岡山シティミュージアム
平成28	江戸と岡山藩	2016年10月29日～11月13日	岡山シティミュージアム
平成29	池田光政と絵図	2017年11月3日～11月19日	岡山シティミュージアム
平成30	岡山藩と寺社	2018年11月3日～11月18日	岡山シティミュージアム

## 記念講演会・パネルディスカッション

年度	記念講演会	記念講演会講師 (役職は当時)	期 日
平成9	絵図を読む	岡山大学文学部教授 倉地克直	1997年10月25日
平成10	瀬戸内の交流	岡山県総合文化センター総括学芸員 竹林榮一	1998年10月23日
平成11	日本庭園と後楽園	岡山大学農学部教授 千葉喬三	1999年10月23日
平成12	江戸幕府の国絵図事業	東亜大学教授 川村博忠	2000年10月28日
平成13	岡山藩の江戸藩邸	東京大学史料編纂所教授 宮崎勝美	2001年10月23日
平成14	津田永忠と岡山藩の土木事業	岡山大学環境理工学部教授 名合宏之	2002年10月26日
平成15	近世の境界論争と裁判	東京大学史料編纂所助教授 杉本史子	2003年10月23日
平成16	岡山城下町を掘る ～絵図と遺構～	岡山市デジタルミュージアム開設事務所 乗岡実	2004年10月23日
平成17	池田家文庫絵図の見方	岡山大学文学部教授 倉地克直	2005年10月1日
平成18	「長久手合戦図屏風」の世界	茨城大学人文学部教授 高橋修	2006年10月26日
平成19	江戸時代の陸上交通	岡山県立記録資料館館長 在間宣久	2007年11月23日
平成20	「鎖国」の中の日本と朝鮮	名古屋大学文学部教授 池内敏	2008年11月1日
平成21	儒教教育と武士の人間形成	京都大学大学院教育学研究科教授 辻本雅史	2009年10月3日
平成22	デジタルマップで廻る城下町	徳島大学大学院ソシオ・アーツ・サイエンス研究部教授 平井松午	2010年11月20日
平成23	国絵図復元の成果	東京藝術大学大学院准教授 荒井経	2011年10月23日
平成24	徳川家光と日本	京都大学名誉教授 藤井譲治	2012年11月18日
平成25	開国と開港	東京大学史料編纂所教授 横山伊徳	2013年11月9日
平成26	幕末維新期の岡山	東京大学名誉教授 宮地正人	2014年11月8日
平成27	近世京都の大名屋敷	京都大学大学院文学研究科教授 横田冬彦	2015年10月31日
平成28	大名家の江戸勤役	学習院女子大学大学院教授 岩淵令治	2016年10月30日
平成29	池田光政の時代	岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授 三宅正浩	2017年11月12日
平成30	池田家と国清寺	元岡山県立記録資料館館長 在間宣久	2018年11月10日

年度	パネルディスカッション	期日
平成23	国絵図復活 東京大学史料編纂所教授 杉本史子 東京藝術大学大学院准教授 荒井経 電気通信大学准教授 佐藤賢一 筑波大学大学院博士前期課程 中村裕美子 国絵図研究会会員 青木充子 〔司会〕東京大学大学院准教授 中村雄祐	2011年10月23日

番号	資料名	整理番号	員数	年代	法量(h×w, cm)
1	美濃龍徳寺及京都各墓所略図書類等	T11-147	1袋		
1-1	記	T11-147-7	1通	明治20年(1887)6月	23.8×33.6
1-2	龍徳寺旧記抜書	T11-147-3	1冊	年代未詳	24.1×16.8
1-3	美濃国池田郷本郷村御墓所見取略図	T11-147-12	1枚	明治20年(1887)5月	117.0×107.0
1-4	龍徳寺墓所石垣并門新築之図	T11-147-5	1枚	年代未詳	43.2×30.7
1-5	龍徳寺墓所石碑建立之図	T11-147-4	1枚	年代未詳	28.1×40.1
1-6	京都知恩院境内良正院殿御墓所図	T11-147-10	1枚	年代未詳	53.8×39.2
1-7	京都相国寺塔頭善心院境内御墓所図	T11-147-6	1枚	年代未詳	27.2×39.3
1-8	京都妙心寺塔頭天球院・慈雲院境内御墓所之図	T11-147-9	1枚	年代未詳	27.1×71.1
2	龍徳寺御参詣御供引請書付	P1-274	1袋		
2-1	御廟御参詣之節行列	P1-274-1	1冊	(嘉永2年(1849)4月)	16.6×7.4
2-2	龍徳寺江御出之節御供上下人数	P1-274-16	1通	(嘉永2年(1849)4月)	15.8×63.4
3	国清寺絵図	T11-26	1枚	年代未詳	61.8×44.6
4	国清寺御先供之図	T11-70	1枚	年代未詳	27.5×37.8
5	稲葉源十郎宛国清寺口上書	P1-263	1通	慶応4年(1868)正月25日	17.5×52.9
6	清泰院内因州様御先祖御廟所図	T13-27	1枚	年代未詳	39.6×108.5
7	養林寺絵図	T11-20	1袋		
7-1	養林寺本堂御靈屋指図	T11-20-1	1枚	年代未詳	93.8×72.2
7-2	養林寺御靈屋指図	T11-20-2	1枚	年代未詳	45.7×30.2
8	養林寺参詣図	P1-436	1枚	年代未詳	55.7×55.5
9	養林寺記録	P1-312	1冊	明治22年(1889)2月25日写	27.8×18.8
10	養林寺御分当時常念仏寺御靈屋之図	T11-139	1枚	年代未詳	27.0×18.8
11	常念仏寺絵図	T11-141	1枚	年代未詳	27.6×37.7
12	円山全図	T11-18	1枚	宝永5年(1708)正月	222.4×185.0
13	護国山曹源寺江被下御判物之扣	P1-227	1通	元禄11年(1698)5月22日	46.6×65.6
14	護国山曹源寺寺領目録扣	P1-226	1通	元禄11年(1698)5月22日	34.0×105.3
15	曹源寺記録	P1-189	1冊	元禄10年～宝永5年(1697～1708)	27.6×20.4
16	円山正覚谷塔図	T13-77	1枚	年代未詳	79.1×31.2
17	円山御廟所見取図	T11-38	1枚	年代未詳	48.0×83.1
18	円山御先供之図	T11-78	1枚	年代未詳	38.5×27.4
19	円山御廟御靈屋御参詣之図	T11-85	1枚	年代未詳	27.3×38.8
20	内山下石山円務院図	T11-146	1枚	年代未詳	102.8×108.9
21	仏心寺正殿絵図	T11-144	1包		
21-1	仏心寺正殿普請指図	T11-144-2	1枚	年代未詳	27.8×39.0
21-2	仏心寺正殿指図	T11-144-1	1枚	年代未詳	27.9×40.3
22	仏心寺縁起	P1-233	1通	宝暦7年(1757)3月4日	36.4×98.8
23	敦土山図	T11-47	1枚	年代未詳	79.4×105.3
24	備前備中御領分寺数帳	P1-373	1冊	延宝3年(1675)	14.2×20.5
25	御國中神社記	P1-321	1冊	延宝3年(1675)11月4日	7.0×20.2
26	備前備中領分之内寺社領判物之扣	P1-237	1冊	延宝2年～延宝6年(1674～78)	40.8×14.6
27	備前岡山城下諸郡共并備中領分寺社数寺社領書上	P1-218	1冊	正徳5年(1715)7月	28.3×20.1
28	御山并利光院御先供之図	T11-73	1枚	年代未詳	27.5×39.2
29	御祭礼之節御旅所之図	T11-84	1枚	年代未詳	27.5×37.6
30	東照宮御祭礼記	P1-209	3冊	年代未詳	28.6×20.4
31	酒折宮御装束并御社参之節之図	T11-95	1枚	年代未詳	37.9×27.4
32	酒折宮社記	P1-305	1通	延享2年(1745)6月	28.0×339.8
33	伊勢宮御先供之図	T11-87	1枚	年代未詳	37.6×27.4
34	備前一宮絵図	T11-114	1枚	年代未詳	55.1×38.4
35	一宮御先供之図	T11-97	1枚	文化15年(1818)3月12日	61.6×34.2
36	一宮御絵馬写	T11-17	1枚	宝永4年(1707)6月朔日	65.5×94.3
37	子安神社御絵馬写	T11-13	1枚	宝永4年(1707)6月朔日	29.4×39.5
38	大守肥後守書付式通	T11-15	1包		
38-1	書上	T11-15-1	1通	午年4月9日	27.4×41.7

番号	資料名	整理番号	頁数	年代	法量(h×w,cm)
38-2	書上	T11-15-2	1通	午年4月9日	27.4×41.7
39	一宮御造営留	P1-192	1冊	元禄10年(1697)	27.8×20.2
40	一宮子安神之書付	P1-244	1通	年代未詳	28.4×41.4
41	八幡宮御参詣之図	T11-145	1枚	年代未詳	53.0×23.0
42	覚(八幡宮由緒書上)	P1-246-4	1通	年代未詳	30.4×94.8
43	上道郡祇園村長守祇園宮御絵図	T11-34	1袋		
43-1	備前国上道郡祇園宮絵図	T11-34-3	1枚	正徳2年(1712)6月15日	94.4×53.3
43-2	祇園宮覚書	T11-34-1	1通	年代未詳	14.0×153.6
44	邑久郡千手山絵図	T11-54	1枚	年代未詳	112.8×139.0
45	邑久郡千手山之絵	T11-53	1枚	年代未詳	94.5×173.0
46	山王宮地主権現御造営留	P1-190	1冊	元禄10年(1697)	28.0×20.2
47	和気郡八塔寺境内見取絵図	T11-33	1枚	慶応元年(1865)9月写	55.8×79.1
48	八塔寺本堂指図	T11-19	1枚	年代未詳	79.8×125.4
49	八塔寺本坊寺中離山之一件	P1-387	1冊	文政8年～天保5年(1825～34)	25.0×17.6
50	社寺旧記(1)～(47)	P1-80～126	47冊	年代未詳	26.5×18.8
51	寺社留	P1-1～13	13冊	元禄4年～宝永6年(1691～1709)	27.0×20.6
52	寺方留	P1-14～45	32冊	宝永7年～寛保元年(1710～41)	27.0×20.1
53	社方留	P1-46～76	31冊	宝永7年～寛保元年(1710～41)	27.0×20.1
54	撮要録(22)～(28)寺社部	A5-22～28	7冊	年代未詳	26.8×18.8
55	高野山略図	T11-137	1枚	年代未詳	40.2×66.8
参考	備前岡山地理家宅一枚図	T6-32	1枚	文久元年(1861)5月	302.4×168.3

## 平成30年度企画展 池田家文庫絵図展 岡山藩と寺社

発行日／平成30年11月3日

主催／岡山大学附属図書館 岡山シティミュージアム

発行／岡山大学附属図書館

〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目1-1

印刷／株式会社プリント・ケイ

# 岡山大学学都基金

— 地域・社会とともに、  
真のグローバル人材を育成する —

学都基金は、平成20年4月に設置しました「岡山大学21夢基金」を再構築する形で生まれ変わり、平成27年4月から募金を開始しております。

本学では、教育・研究活動を通して社会に貢献できるよう、様々な取組、事業等を行っておりますが、一方で国からの運営費交付金は毎年削減され、財源の多様化、自己収入増加を図るよう求められております。そのため、この学都基金を有効に活用し、本学の教育・研究をなお一層力強く推進し、これまで以上に地域・社会に貢献できるように努力しております。

つきましては、卒業生をはじめ、広く地域・社会その他諸方面の皆様には、イノベーション創出・学都創成・グローバル化の推進を目的とした「岡山大学学都基金」について、「理解いただき、格別のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。」



## 基金事業

事業	支援事業の概略	内容
地域振興・イノベーション創出支援事業	地域振興並びにイノベーション創出のための支援を実施	1. 本学が指定する研究テーマ(地域振興・イノベーション創出)の支援 2. 研究成果が社会貢献に繋がるイノベーション創出課題(企業からの提案)に対する事業支援(学内公募) 3. イノベーション創出のための産学共同研究強化の支援(マッチング事業)
教育活動支援事業	優れた教育活動・グローバル人材育成事業へ支援を実施	1. グローバル人材育成事業への支援等 2. 優れた教育活動プログラムの策定・実施への支援等
研究活動支援事業	優秀な研究・研究者への支援、若手教職員の能力開発支援を実施	1. 若手教職員が能力開発のための研修会への参加経費の支援等 2. 海外での国際研究集会への渡航費の支援等 3. 若手教職員・女性研究者支援等
修学支援事業	経済的な理由により修学が困難な学生に対し支援を実施	1. 奨学金・意欲のある学生に対し、給付型の奨学金を支払い 2. 授業料免除・学生の授業料につき全額もしくは半額免除 3. 留学支援・学生を対象とした海外などへの渡航費等支援
SDGs推進事業	SDGs(持続可能な開発目標)推進のための事業へ支援を実施	SDGs推進に資する教育プログラム、研究プロジェクト、社会貢献活動への支援等
上記以外の事業	基金の充実及び目的の達成に必要な事業へ支援を実施	当該事業に応じた支援

## お問い合わせ

岡山大学学都基金事務局(総務・企画部総務課)

〒700-8530  
岡山市北区津島中一丁目1番1号  
Tel. 086-251-7009 電話受付: 9:00-17:00(土・日・祝日除く)  
Fax. 086-251-7294  
E-mail [kikin@adm.okayama-u.ac.jp](mailto:kikin@adm.okayama-u.ac.jp)

## 寄付金の申込方法

左記連絡先に、住所・氏名をご連絡ください。折り返し、パンフレット等を送付いたします。パンフレットに同封の振込依頼書により振込手続きをお願いいたします。インターネットからの申込も可能です。学都基金の詳細については、ホームページをご覧ください。税制上の優遇措置についても記載しております。(寄付金控除の対象となります。)

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/kouhou/kikin/>

岡山大学学都基金

検索

【学都基金HP】





# 池田家文庫資料叢書

A5版 / クロス装・ケース付

岡山大学附属図書館に所蔵されている池田家文庫の貴重資料のうち、特に学術的価値の高いものを厳選して刊行しています。



岡山大学附属図書館貴重資料刊行推進会 編 (編集代表 倉地克直)

最新刊

## 池田家文庫資料叢書 3

平成30年2月刊行

### 「御留帳評定書」下巻

本文 558頁

19,440円 (税込)

岡山藩の政策決定機関である評定所での審議の様子を記録したもので、下巻には池田綱政時代前期の延宝四年から八年(一六七六~八〇)までを収録。

当時の社会状況とそれに対する藩の対応を具体的に知ることができる貴重な資料です。

【目次】

池田家文庫資料叢書3・下巻の刊行にあたって / 目次 / 細目次 / 凡例 / 付図 / 御留帳評定書 延宝四年 / 御留帳評定書 延宝五年 / 御留帳評定書 延宝六年 / 御留帳評定書 延宝七年 / 御留帳評定書 延宝八年 / あとがき



## 池田家文庫資料叢書 3

### 「御留帳評定書」上巻

好評既刊

本文 605頁、解説 19頁 19,440円 (税込)

上巻には、池田光政治世末期の寛文八年から延宝三年(一六六八~七五)までを収録。

## 池田家文庫資料叢書 2

### 「朝鮮通信使饗応関係資料」上・下巻

【上巻】本文 598頁、解説 22頁 10,800円 (税込)

【下巻】本文 749頁、解説 25頁 12,000円 (税込)

## 池田家文庫資料叢書 1

### 「御留帳御船手」上・下巻

各 7,560円 (税込)

【上巻】本文 627頁、解説 9頁

【下巻】本文 717頁

## 池田家文庫 絵はがき 第一集

岡山大学附属図書館所蔵の貴重資料「池田家文庫」の絵はがきです



8枚入り  
309円 (税込)



8枚入り  
309円  
(税込)

岡山大学資源生物科学研究所  
所蔵貴重資料 絵はがき

## 岡山大学出版会

◇ご購入方法：岡山大学出版会、またはお近くの書店にお問い合わせ下さい。

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中 3-1-1  
Tel : 086-251-7306 Fax : 086-251-7314

岡山大学出版会 |  検索

<http://www.lib.okayama-u.ac.jp/up/>

メールでのご注文はこちらへ→[okayama-up@adm.okayama-u.ac.jp](mailto:okayama-up@adm.okayama-u.ac.jp)